

7 人権について

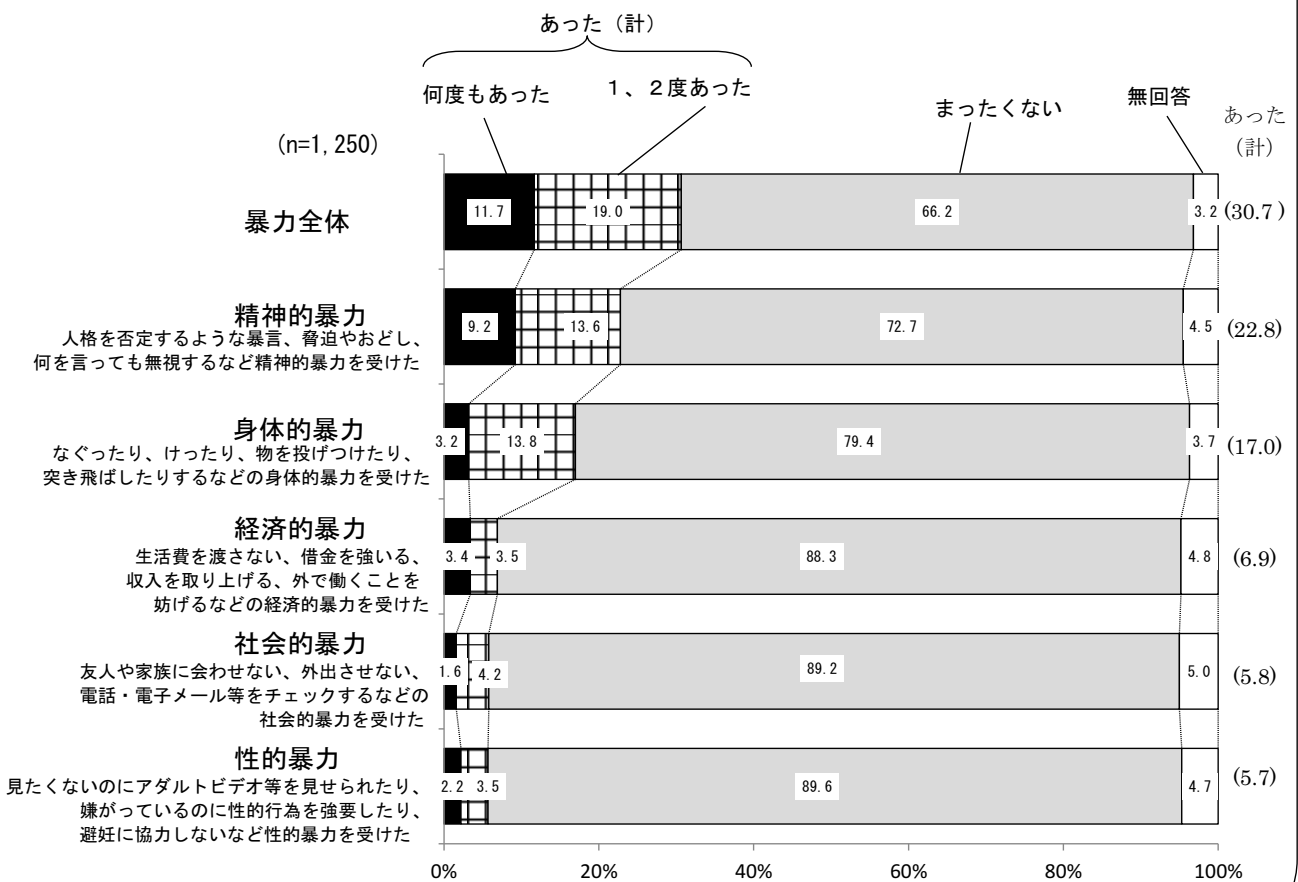
(1) 配偶者から受けたことのある暴力

これまでに結婚（事実婚含む）したことのある方のみお答えください。

問 23 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠をともにする交際相手（同棲相手）、別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

それぞれについてお答えください。【○印はそれぞれ1つ】

【図表 23-1 配偶者から受けたことのある暴力】



◆3 割超の回答者が配偶者から暴力を受けた経験がある

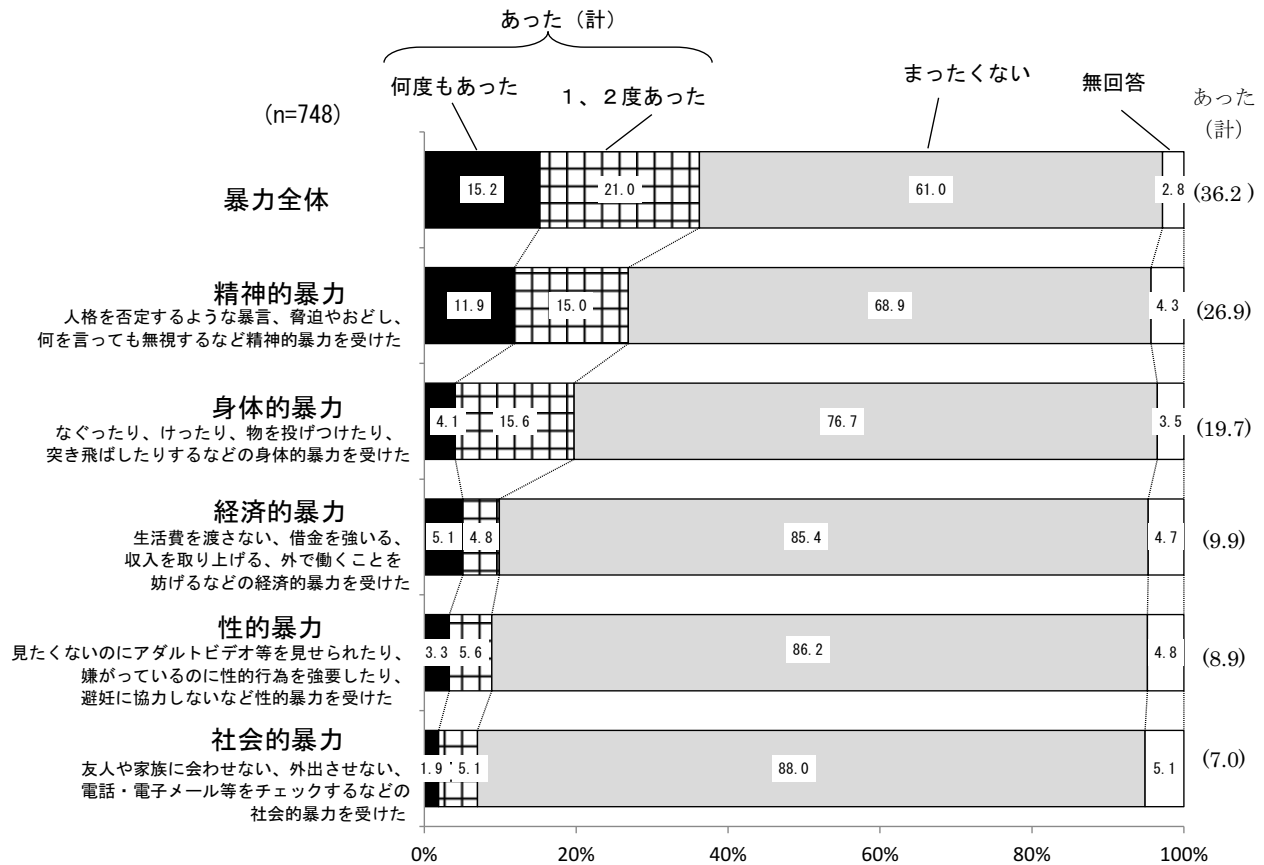
配偶者（事実婚含む）から受けたことのある暴力について、暴力全体（いずれかの暴力を受けたことがある人）では、『あった』（「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた割合）は30.7%となっている。

またそれぞれの暴力について、「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた」が『あった』は22.8%と最も高くなっている。また、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」も『あった』が2割程度となっている。

<性別（女性）>

配偶者から受けたことのある暴力について、女性は「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた」が26.9%と最も高くなっている。次いで、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」（19.7%）、「生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなどの経済的暴力を受けた」（9.9%）などの順となっている。

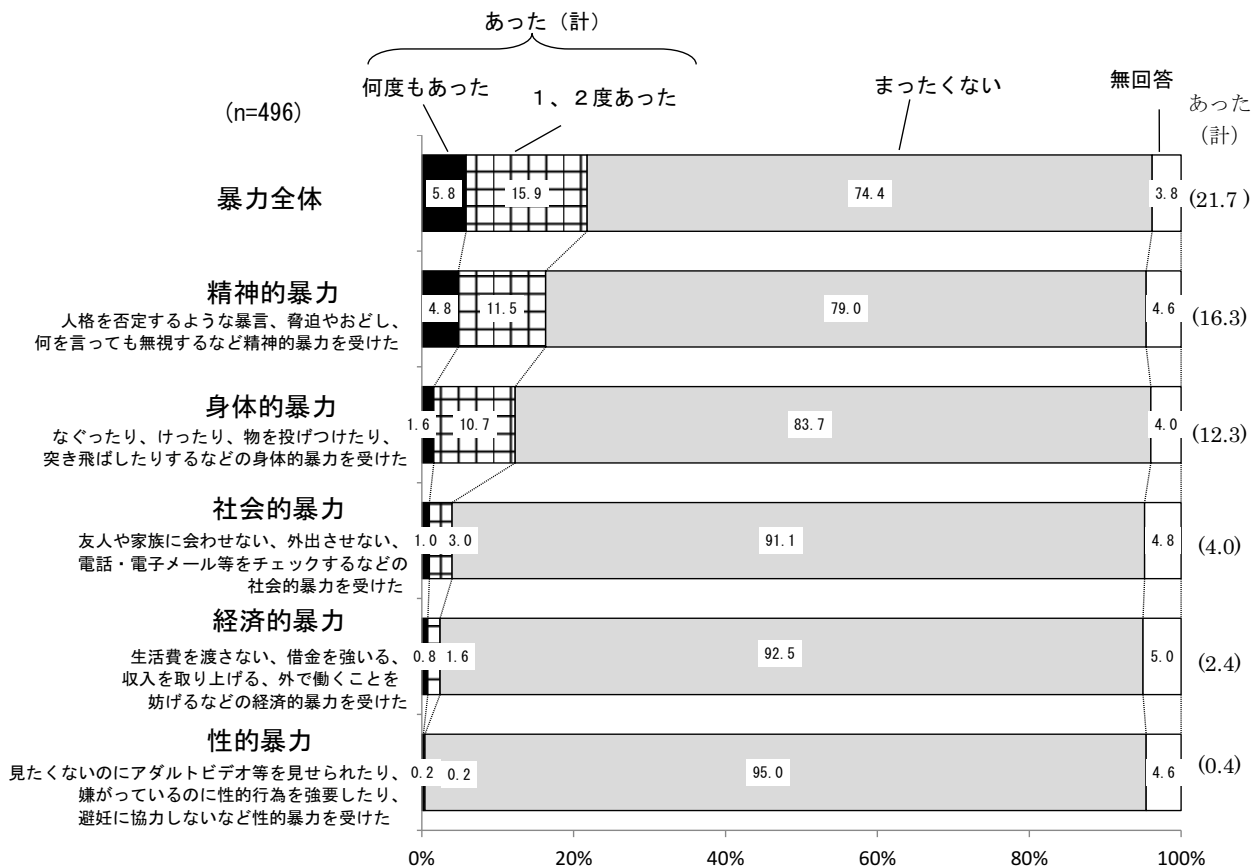
【図表 23-2 配偶者から受けたことのある暴力（女性）】



<性別（男性）>

配偶者から受けたことのある暴力について、男性は「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた」が16.3%と最も高くなっている。次いで、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」（12.3%）、「友人や家族に会わせない、外出させない、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた」（4.0%）などの順となっている。

【図表 23-3 配偶者から受けたことのある暴力（男性）】

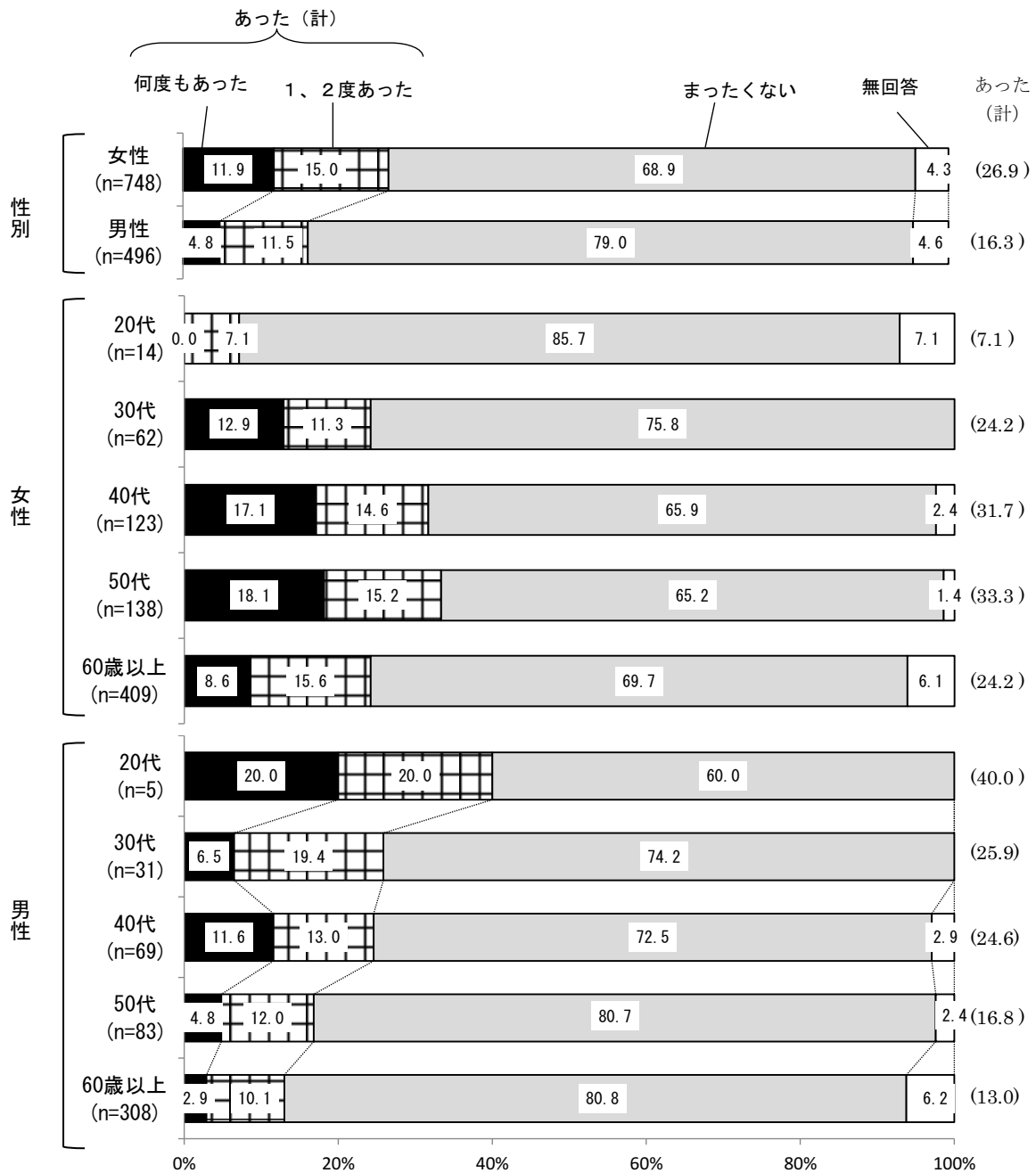


ア精神的暴力を受けた（人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた）

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性は『あった』（「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた割合）が、40代と50代で3割を超えており、男性は年齢が上がるにつれて『あった』が低くなっている。

【図表 23-4 精神的暴力を受けた（人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた）（性・年齢別）】



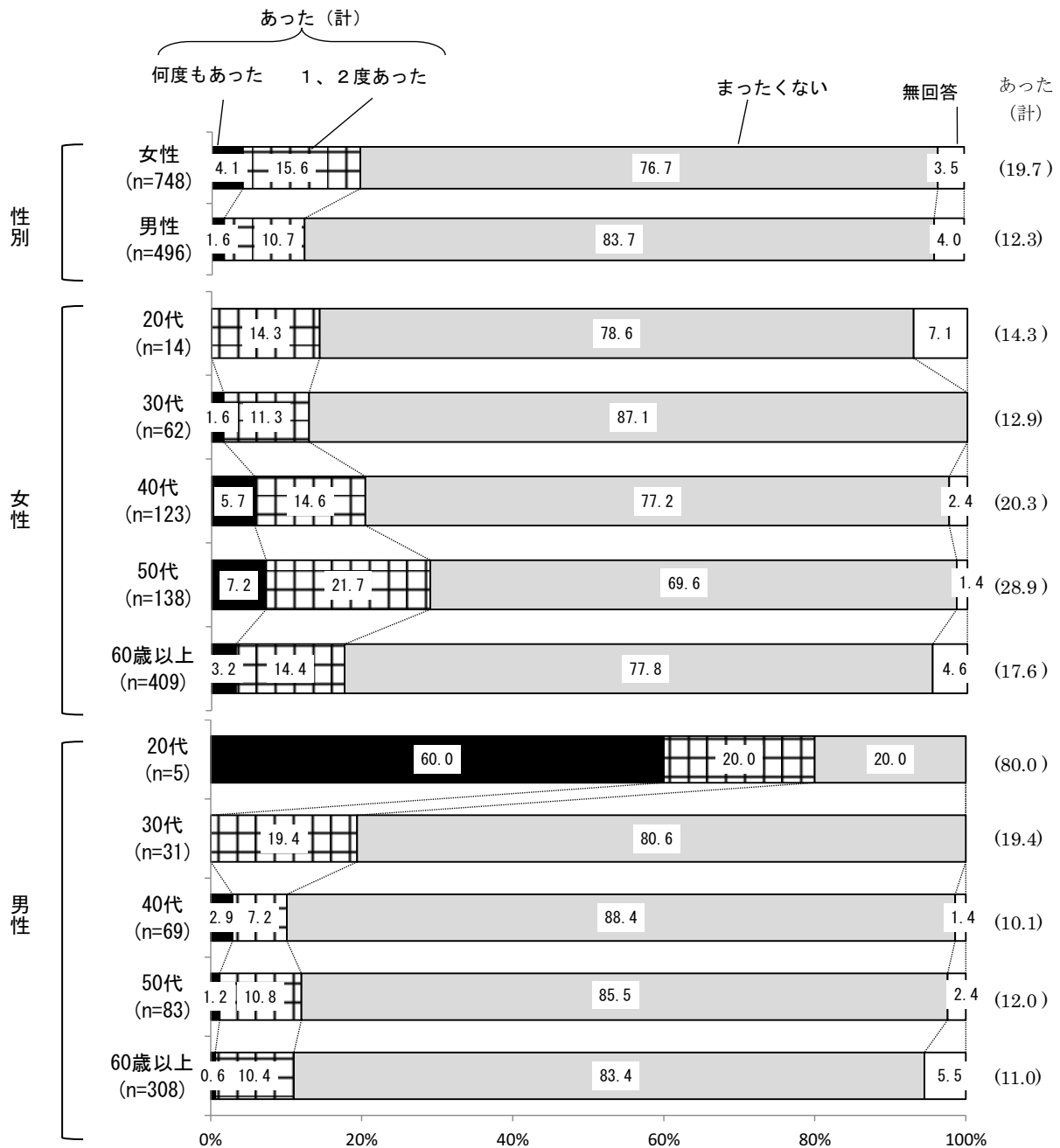
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし

イ身体的暴力を受けた（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた）

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性は『あった』の割合が40代と50代、男性は30代でおよそ2割となっている。

【図表 23-5 身体的暴力を受けた（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体的暴力を受けた）（性・年齢別）】



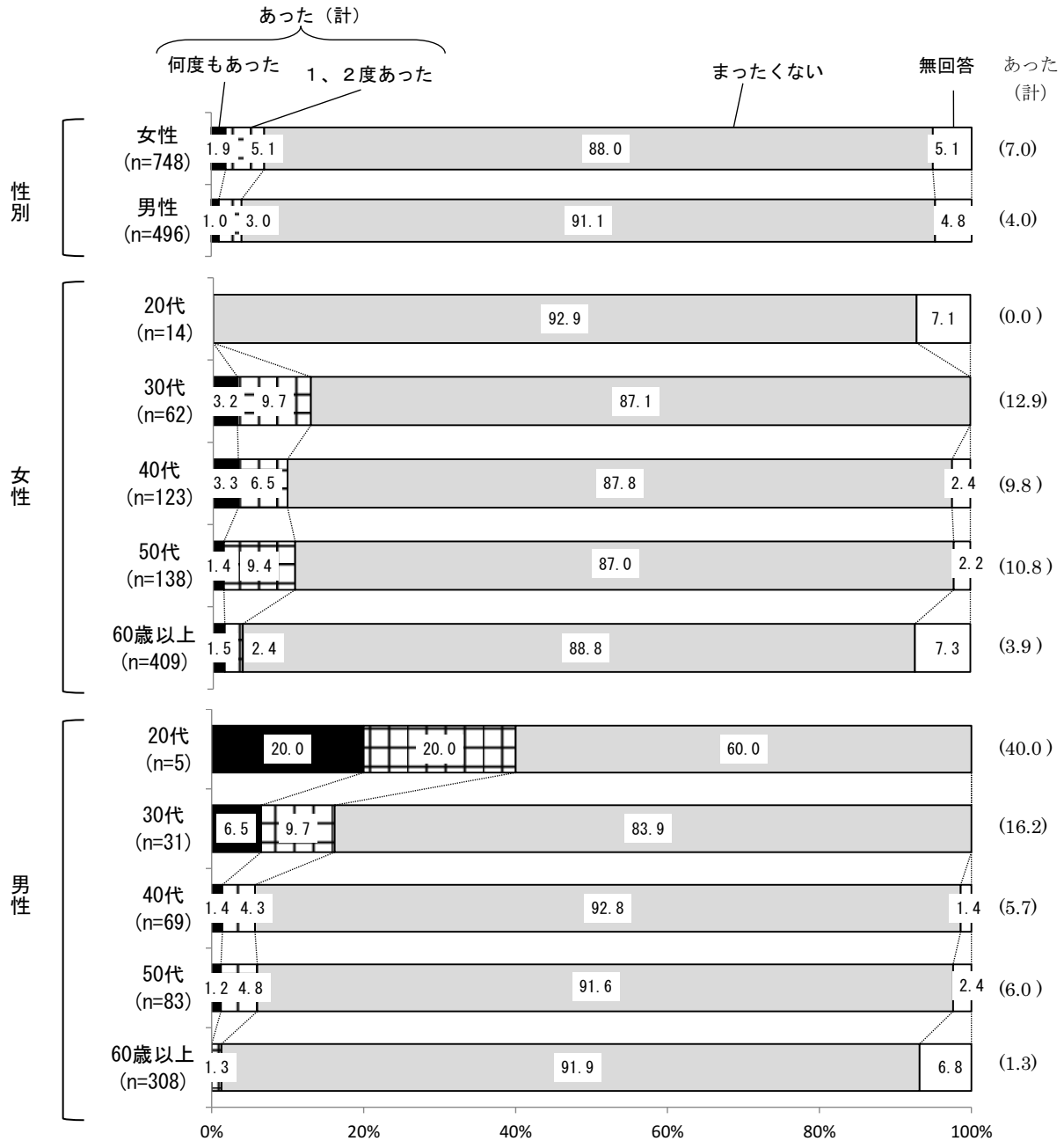
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし

ウ社会的暴力を受けた（友人や家族に会わせない、外出させない、電話・電子メール等をチェックするなど
の社会的暴力を受けた）

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性は30代から50代にかけて『あった』の割合がおよそ1割となっている。
男性は年齢が低いほど『あった』が高い傾向にある。

【図表 23-6 社会的暴力を受けた（友人や家族に会わせない、外出させない、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた）（性・年齢別）】



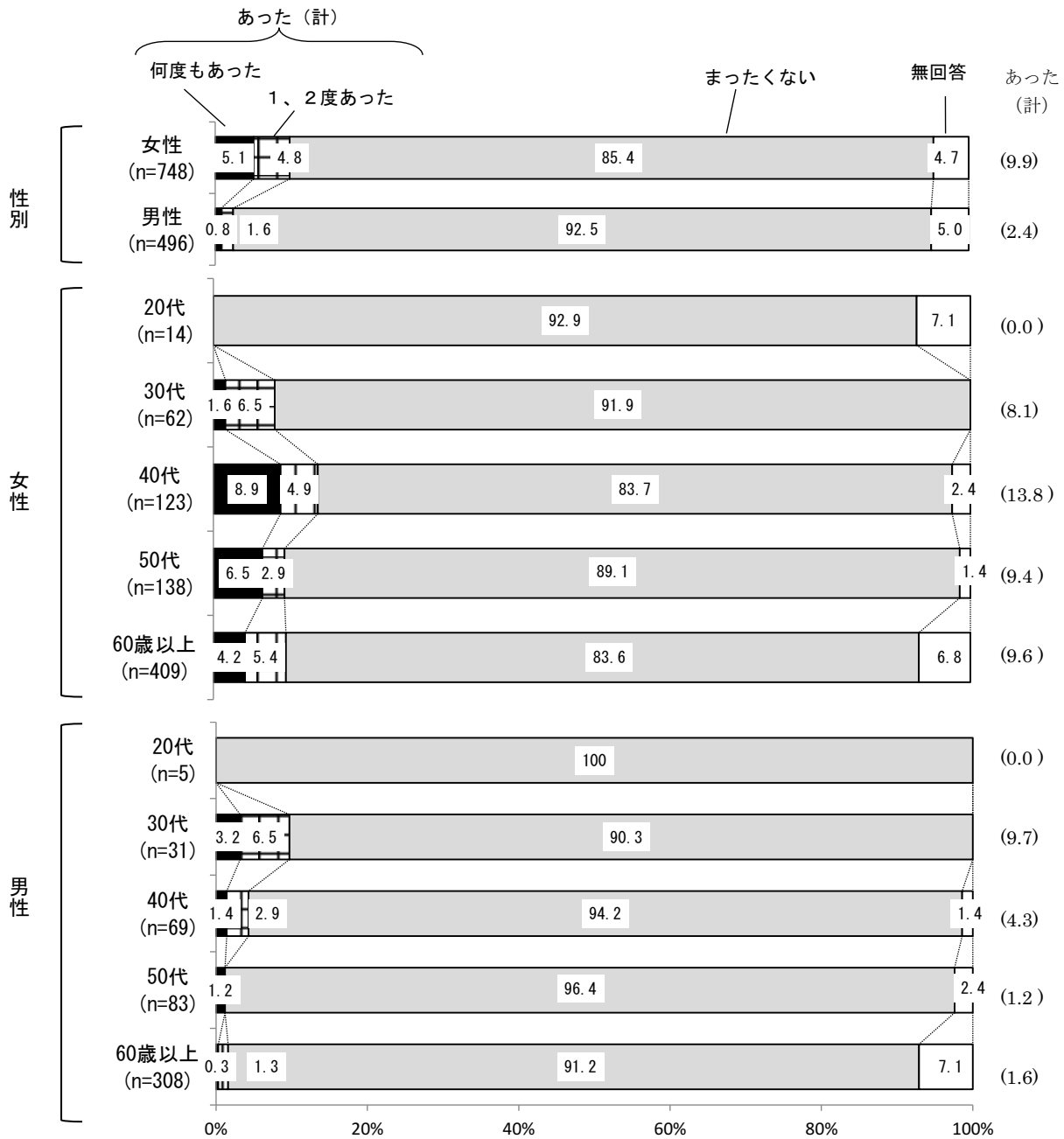
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし

工経済的暴力を受けた（生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなどの経済的暴力を受けた）

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性は40代で『あった』が最も高くなっている。男性は20代と60歳以上を除いて、年齢が低いほど『あった』が高い傾向にある。

【図表 23-7 経済的暴力を受けた（生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなどの経済的暴力を受けた）（性・年齢別）】



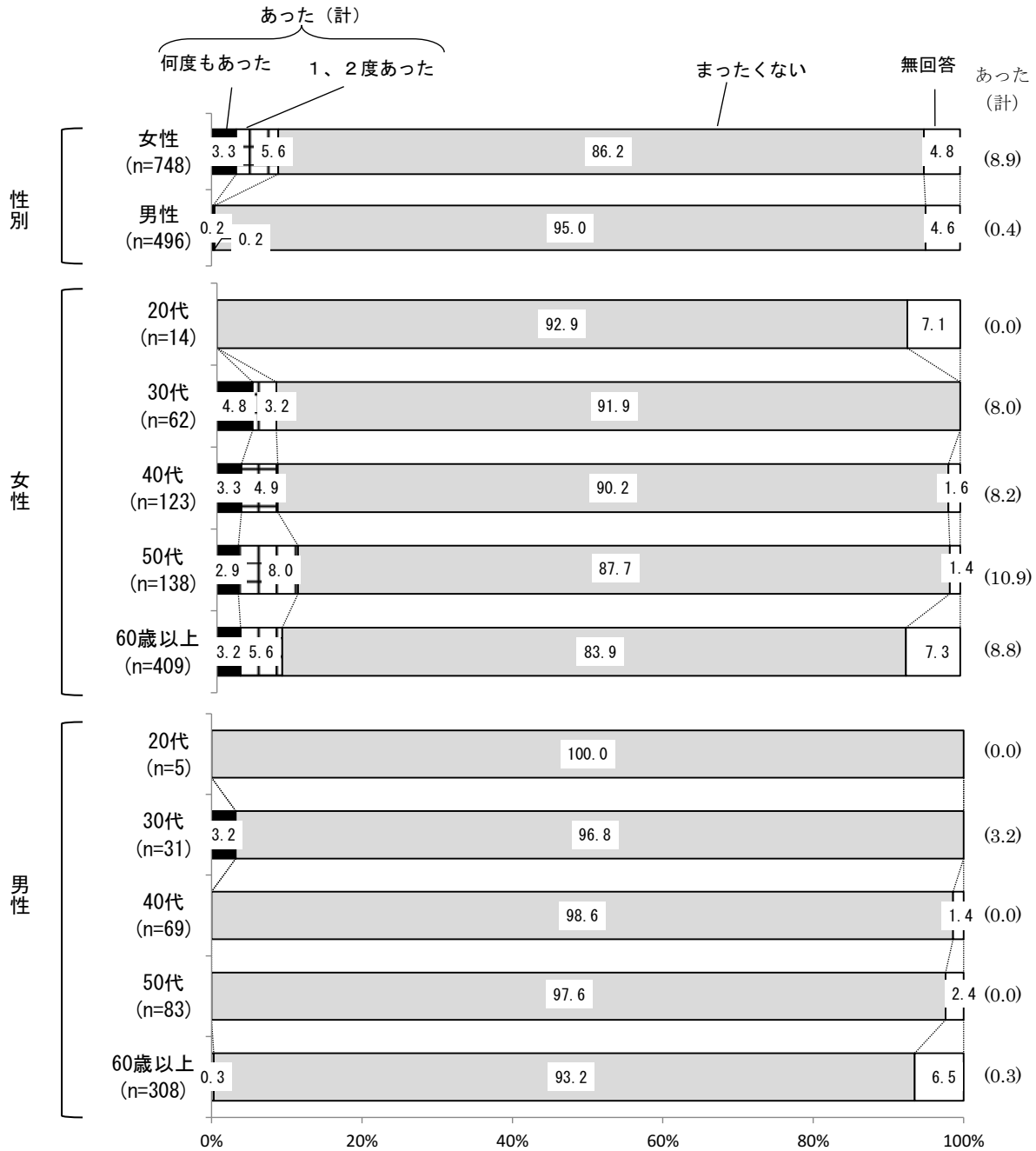
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし

オ性的暴力を受けた（見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた）

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性は20代を除き『あった』が1割程度となっている。

【図表 23-8 性的暴力を受けた（見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた）（性・年齢別）】



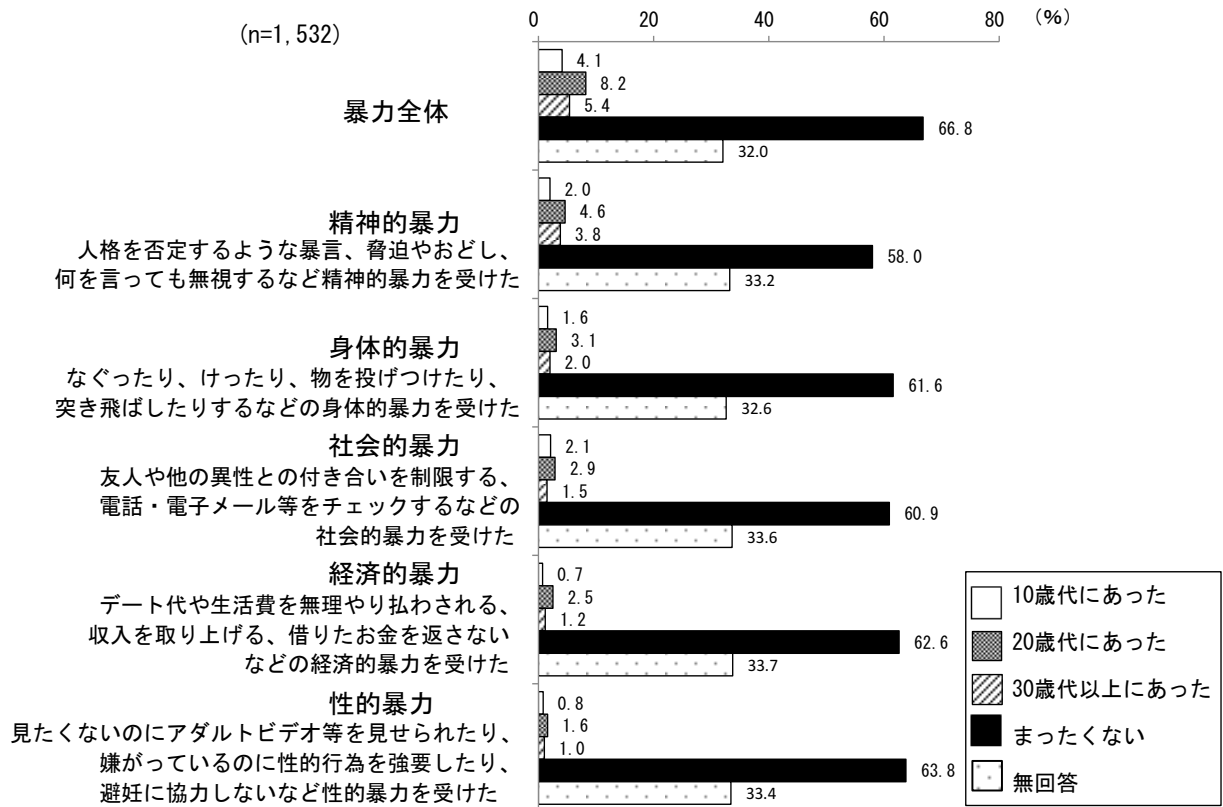
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし

(2) 交際相手から受けたことのある暴力

これまでに交際相手がいち方のみお答えください。

問 24 あなたは、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。それぞれについてお答えください。【○印はそれぞれいくつでも】

【図表 24-1 交際相手から受けたことのある暴力】



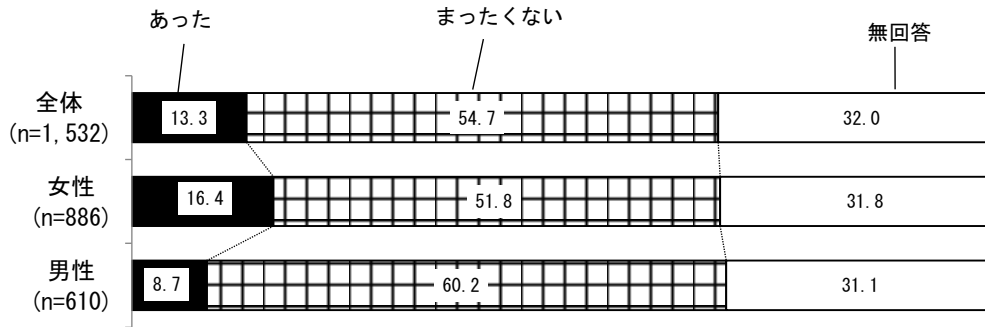
◆暴力行為を受けたことのある年代は 20 歳代が多い

当時の交際相手から暴力行為を受けた年代は、「20 歳代にあった」が 8.2%と最も高くなっている。また、受けたことのある暴力について、「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた」が最も高くなっており、次いで「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」、「友人や他の異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた」となっている。

<交際相手からの被害経験の有無（性別）>

交際相手からの被害経験の有無別でみると、当時の交際相手から”身体的暴力””精神的暴力””社会的暴力””経済的暴力””性的暴力”のいずれかを受けたことが『あった』（「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」を合わせた割合）は13.3%となっており、1割超の回答者が交際相手から暴力を受けた経験がある。

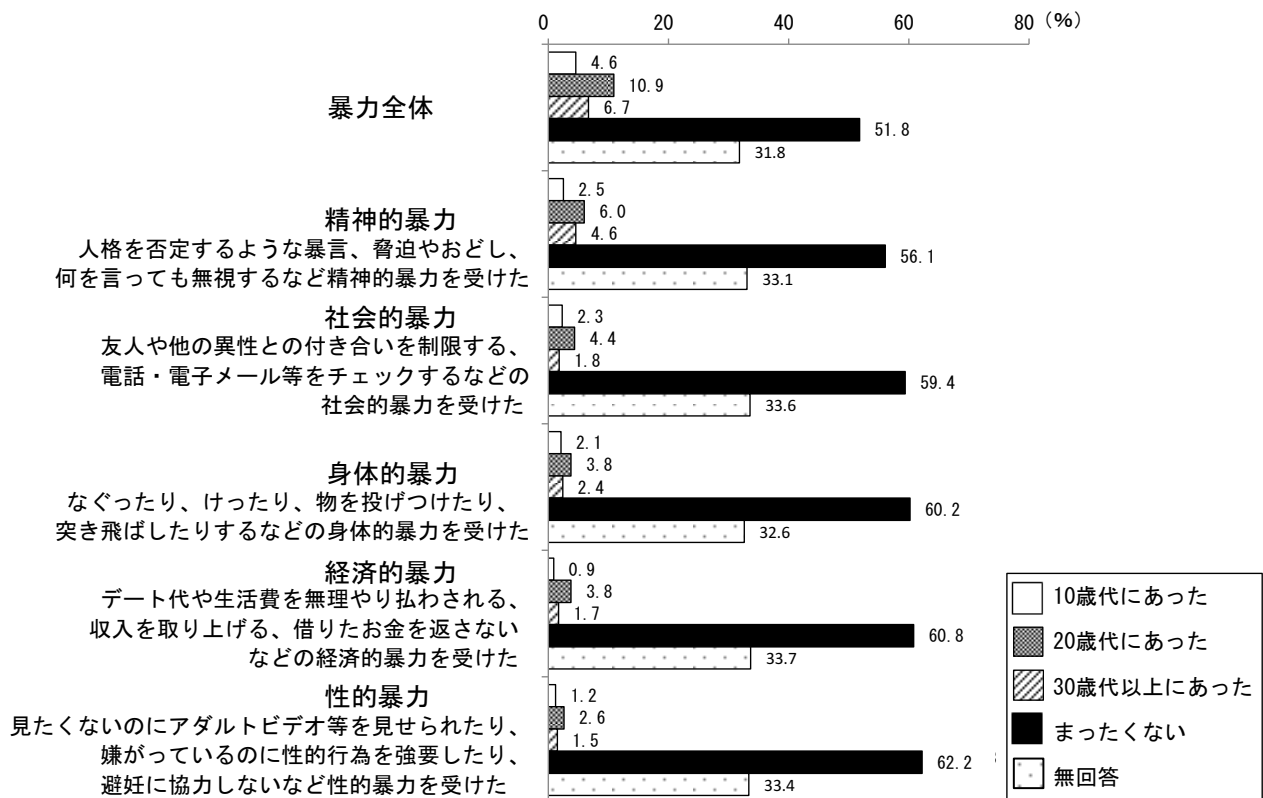
【図表 24-2 交際相手からの被害経験の有無（性別）】



<性別（女性）>

交際相手から受けたことのある暴力について、女性は「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた」が13.1%と最も高くなっている。次いで、「友人や他の異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた」（8.5%）、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」（8.3%）となっている。

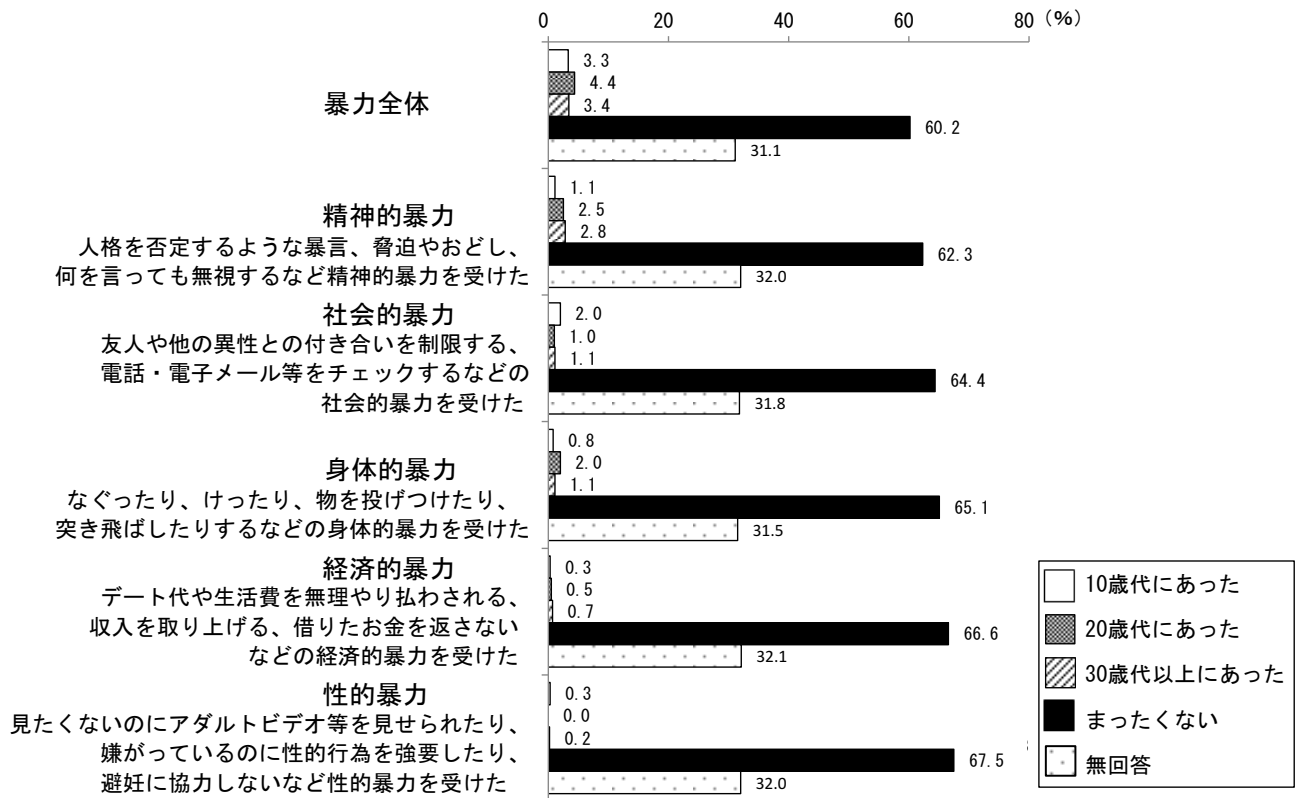
【図表 24-3 交際相手から受けたことのある暴力（女性）】



<性別（男性）>

交際相手から受けたことのある暴力について、男性は「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた」が6.4%と最も高くなっている。また、「友人や他の異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた」(4.1%)、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」(3.9%)となっている。

【図表 24-4 交際相手から受けたことのある暴力（男性）】

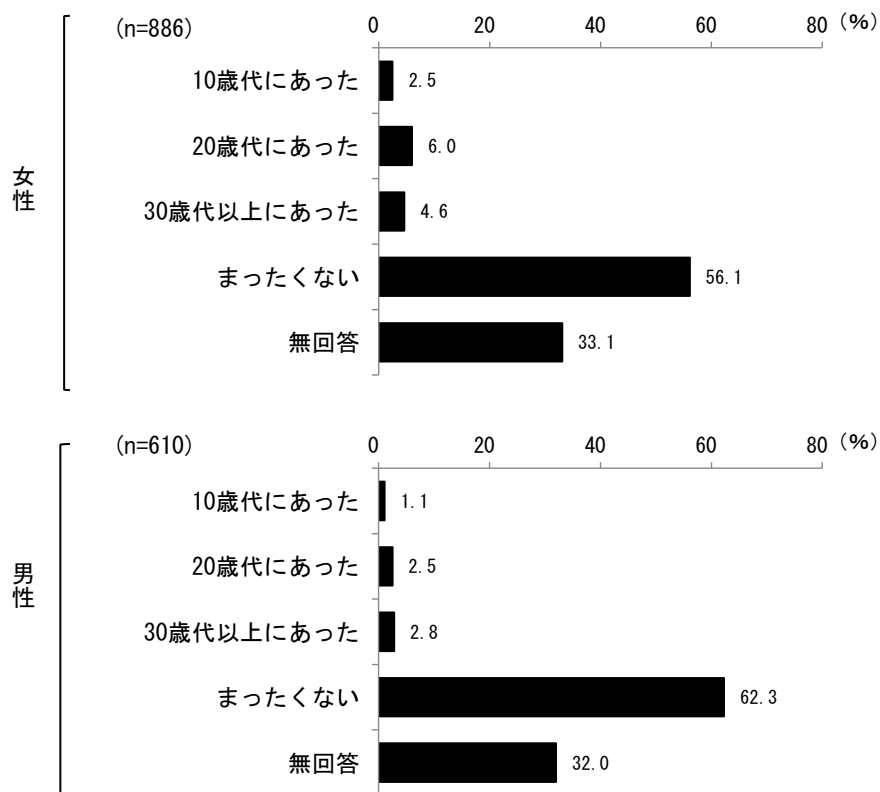


ア精神的暴力を受けた（人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた）

＜性・被害を受けた年齢別＞

性・被害を受けた年齢別にみると、女性は「20歳代にあった」が最も高くなっており、男性は「30歳以上にあった」が最も高くなっている。

【図表 24-5 精神的暴力を受けた（人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど精神的暴力を受けた）（性・被害を受けた年齢別）】

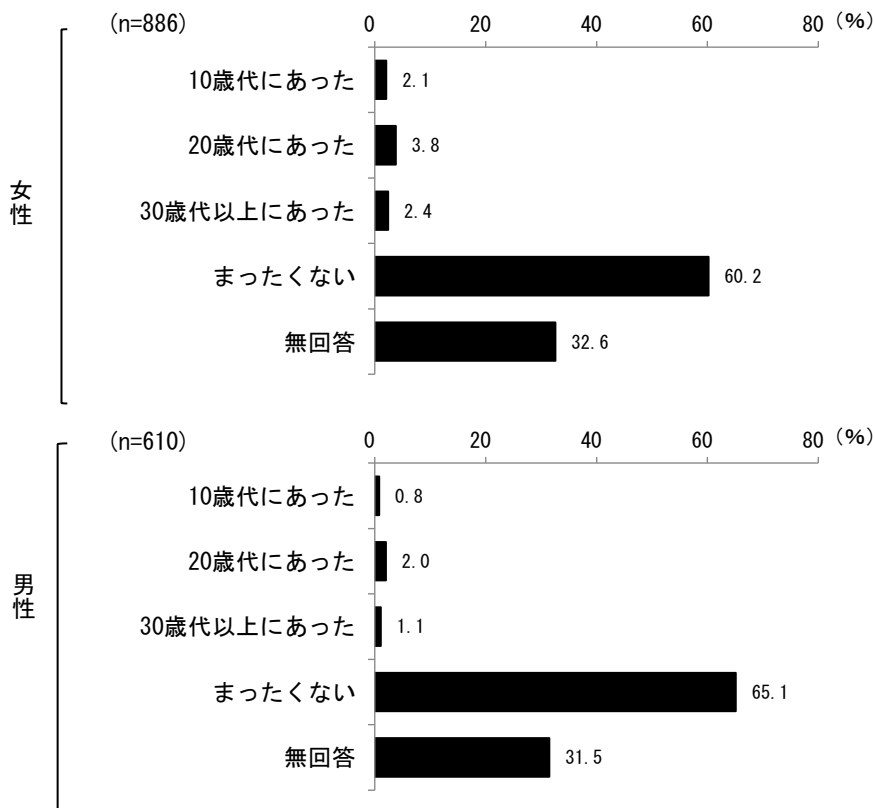


イ身体的暴力を受けた（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた）

<性・被害を受けた年齢別>

性・被害を受けた年齢別にみると、男女とも「20歳代にあった」が高くなっている。

【図表 24-6 身体的暴力を受けた（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた）（性・被害を受けた年齢別）】

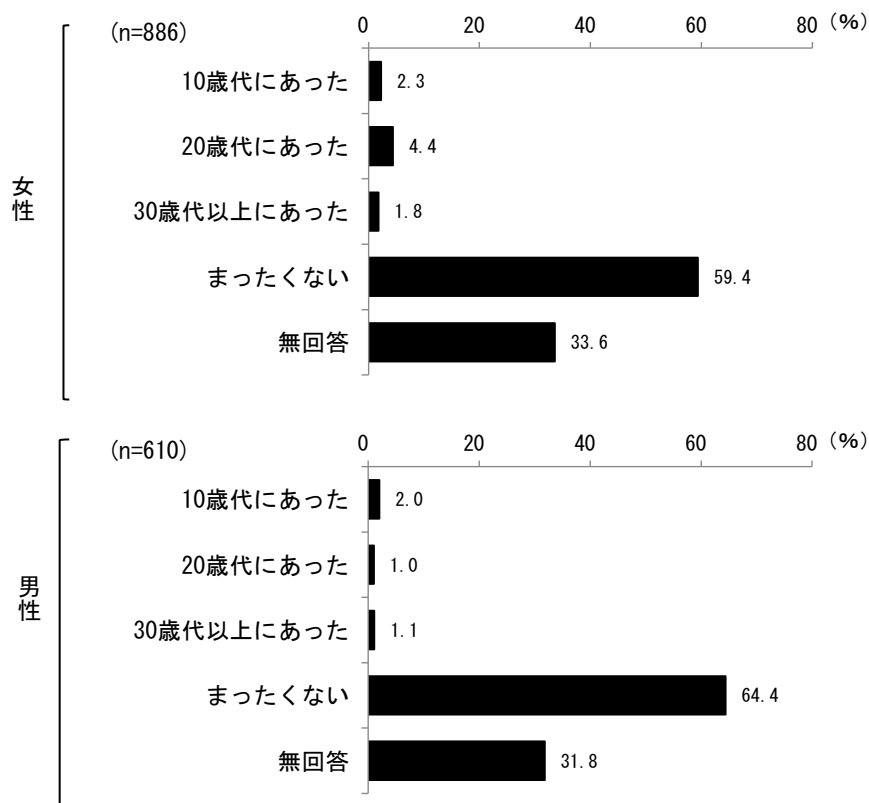


ウ社会的暴力を受けた（友人や異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた）

<性・被害を受けた年齢別>

性・被害を受けた年齢別にみると、女性は「20歳代にあった」が最も高くなっており、男性は「10歳代にあった」が最も高くなっている。

【図表 24-7 社会的暴力を受けた（友人や異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなどの社会的暴力を受けた）（性・被害を受けた年齢別）】

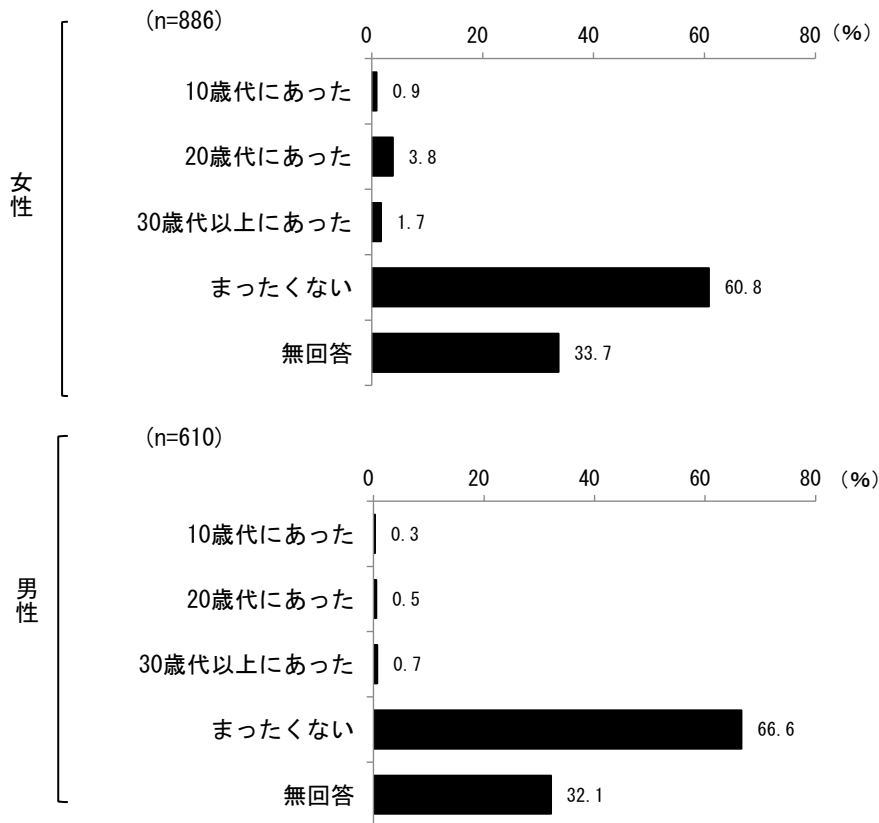


エ経済的暴力を受けた（デート代や生活費を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなどの経済的暴力を受けた）

＜性・被害を受けた年齢別＞

性・被害を受けた年齢別にみると、女性は「20歳代以上にあった」が最も高くなっている。男性は1%未満となっている。

【図表 24-8 経済的暴力を受けた（デート代や生活費を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなどの経済的暴力を受けた）（性・被害を受けた年齢別）】

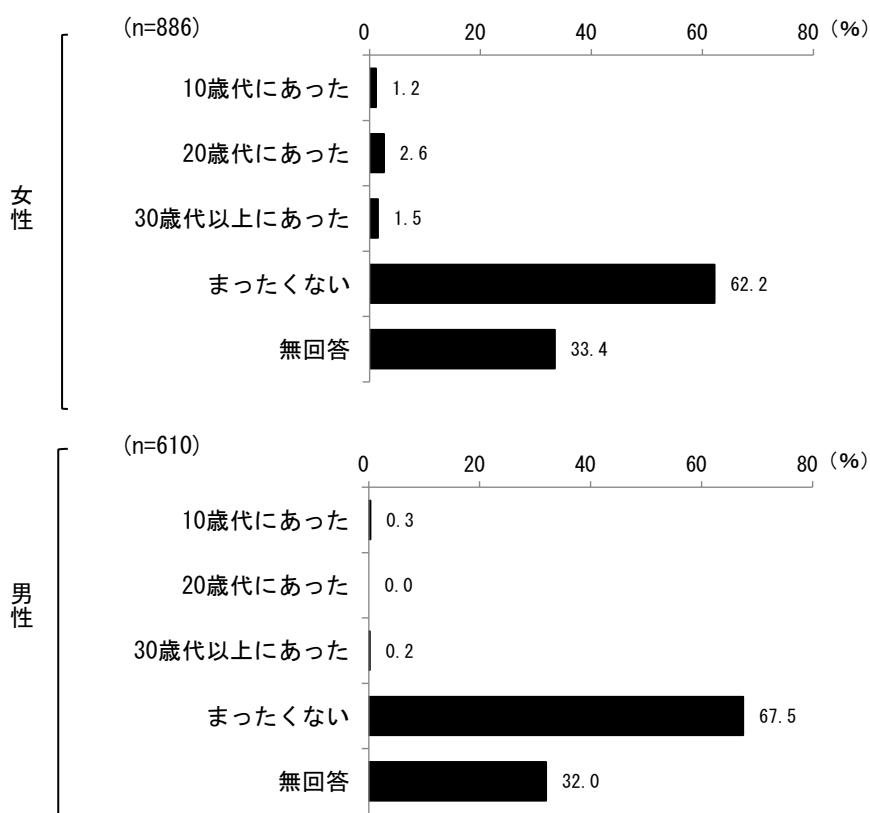


性的暴力を受けた（見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた）

＜性・被害を受けた年齢別＞

性・被害を受けた年齢別にみると、女性は「20歳代にあった」が最も高くなっており、男性は1%未満となっている。

【図表 24-9 性的暴力を受けた（見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた）（性・被害を受けた年齢別）】



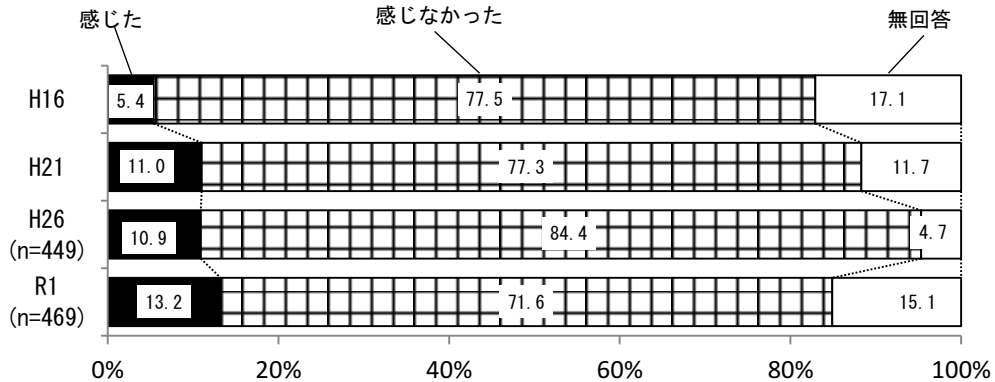
(3) 命の危険を感じたこと

問 23 または問 24 で、ひとつでも「1. まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問 25 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。

【○印は1つ】

【図表 25-1 命の危険を感じたこと】暴力行為経験者ベース



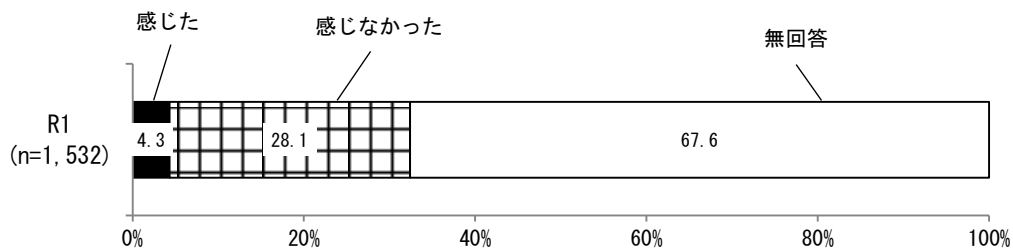
◆暴力行為を受けたことがある人の1割以上が命の危険を感じている

暴力を受けたことがある人で、相手の行為によって命の危険を感じたことについて、「感じた」は13.2%となっており、H16年調査に比べると、約2.5倍になっている。

<回答者全体ベース>

配偶者や交際相手がいる（いた）人で、回答者全体ベース（問 23、問 24 のいずれかで「1、2度あった」、「何度もあった」と回答した人をベース）にみると、相手の行為によって命の危険を「感じた」は4.3%となっている。

【図表 25-2 命の危険を感じたこと】回答者全体ベース



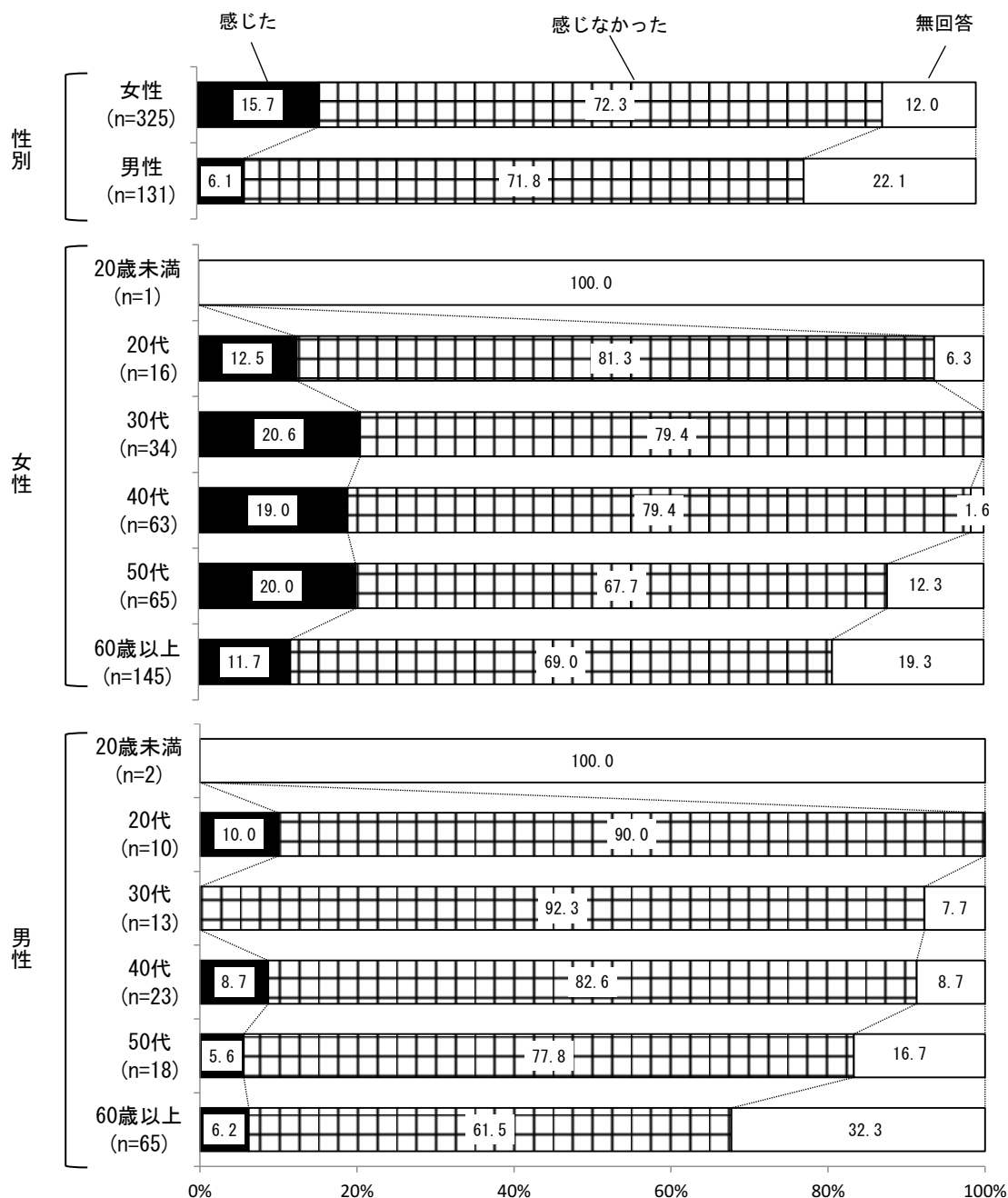
<性別、性・年齢別>

性別にみると、暴力を受けたことがある人で、命の危険を「感じた」は女性が15.7%、男性が6.1%となっており、女性は男性の約2.5倍となっている。

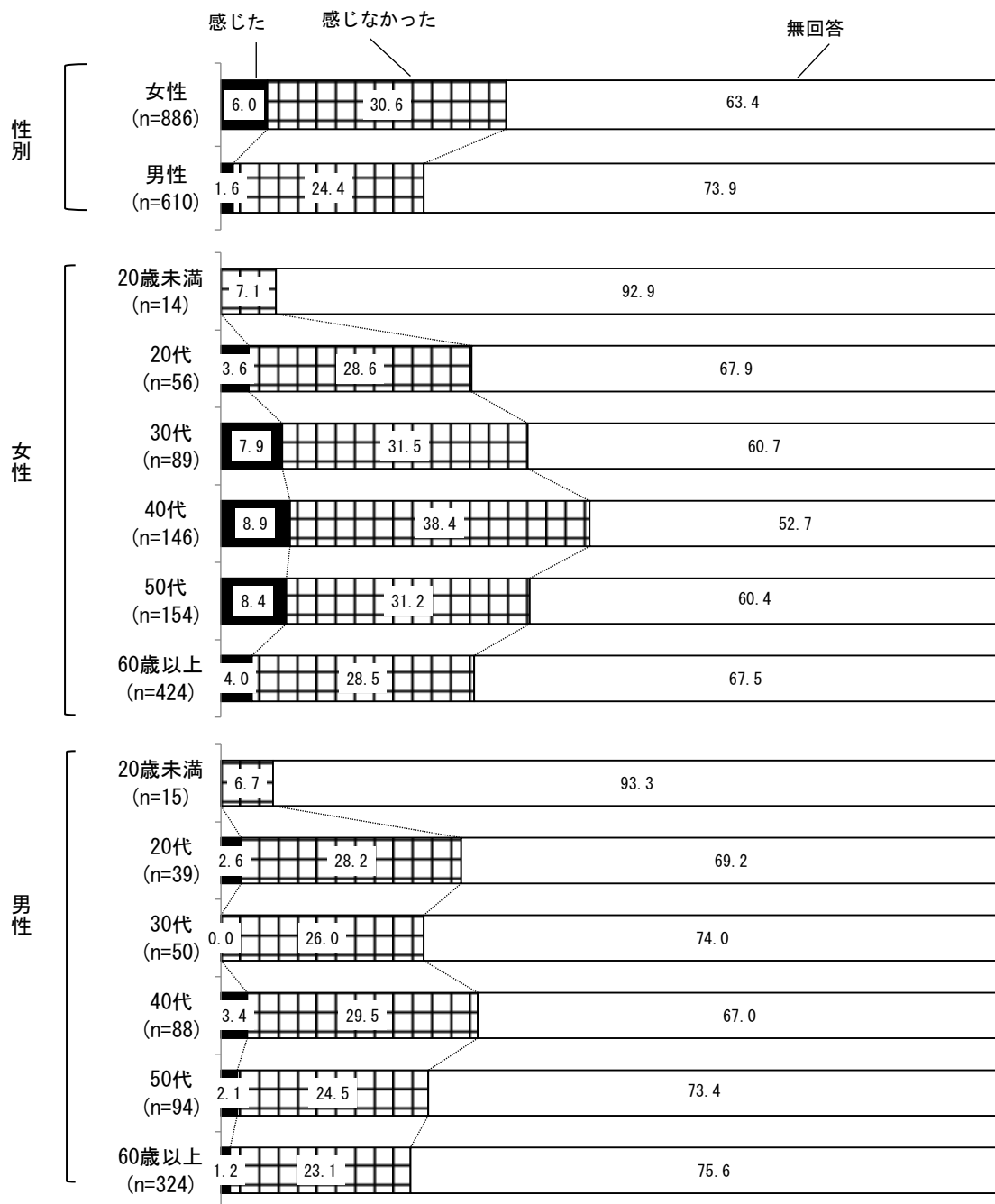
性・年齢別にみると、女性は命の危険を「感じた」が30代、40代、50代で2割前後となり、その他の年代でも1割を超えている。男性は30代全員が「感じなかった」と回答している。

回答者全体ベースにみると、命の危険を「感じた」は女性30代、40代、50代で1割程度となっている。男性は40代(3.4%)が最も高くなっている。

【図表 25-3 命の危険を感じたこと（性別、性・年齢別）】 暴力行為経験者ベース



【図表 25-4 命の危険を感じたこと（性別、性・年齢別）】回答者全体ベース

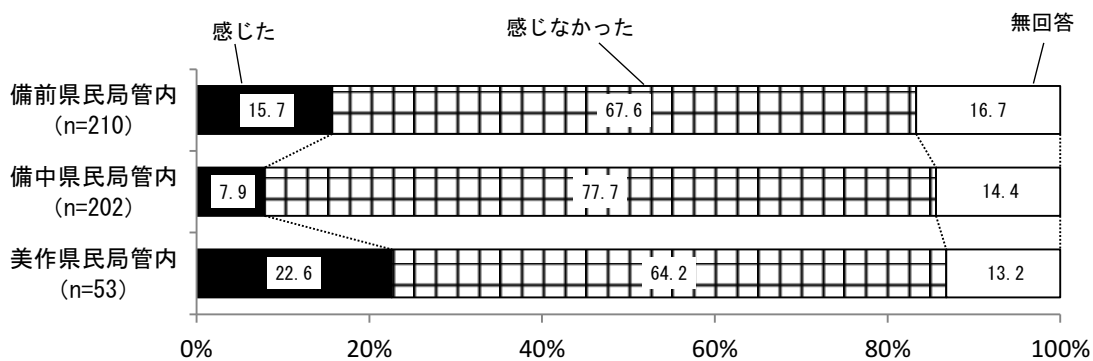


<地域別>

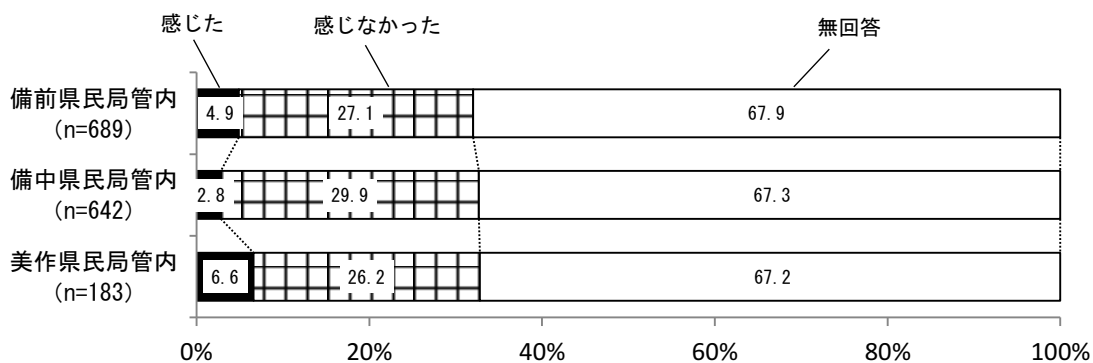
命の危険を「感じた」は美作県民局管内（22.6%）が最も高く、備中県民局管内（7.9%）の約3倍となっている。

回答者全体ベースにみると、命の危険を「感じた」は美作県民局管内（6.6%）が最も高く、備中県民局管内（2.8%）の約3倍となっている。

【図表 25-5 命の危険を感じたこと（地域別）】暴力行為経験者ベース



【図表 25-6 命の危険を感じたこと（地域別）】回答者全体ベース

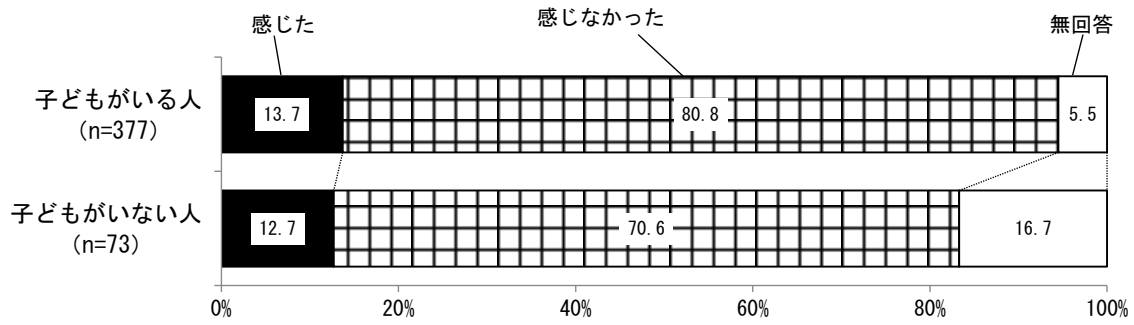


<子どもの有無別>

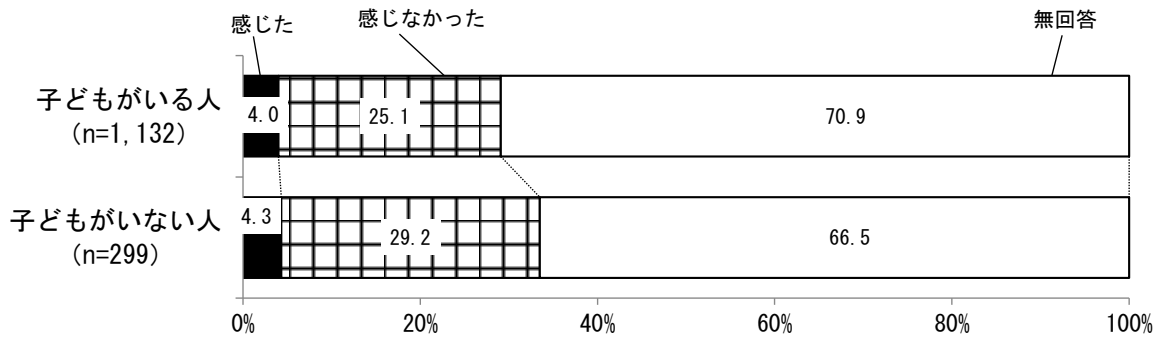
暴力行為経験者ベースにみると、命の危険を「感じた」人は子どもの有無に関わらず、1割以上回答している。また、子どもがいる人は子どもがいない人と比べて、命の危険を「感じなかった」は10.2ポイント高くなっている。

回答者全体ベースにみると、命の危険を「感じた」人は子どもの有無に関わらず、あまり大きな差はみられない。

【図表 25-7 命の危険を感じたこと（子どもの有無別）】暴力行為経験者ベース



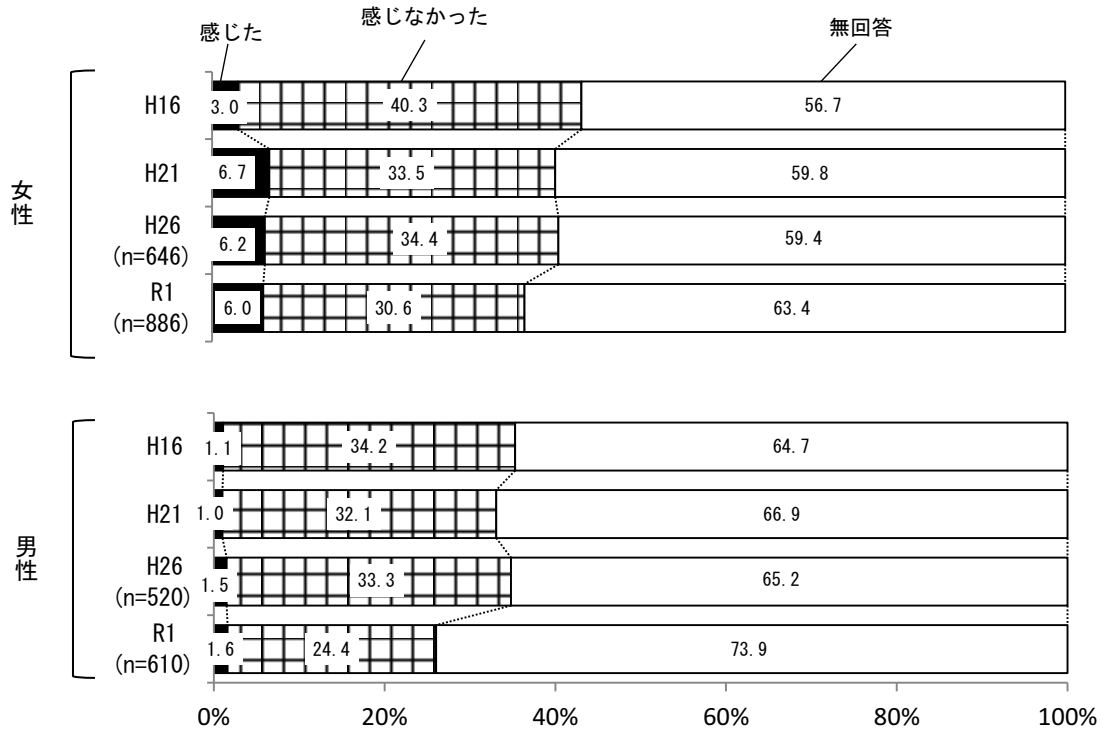
【図表 25-8 命の危険を感じたこと（子どもの有無別）】回答者全体ベース



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、男女ともに、命の危険を「感じた」の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 25-9 命の危険を感じたこと（過去の調査との比較）】回答者全体ベース

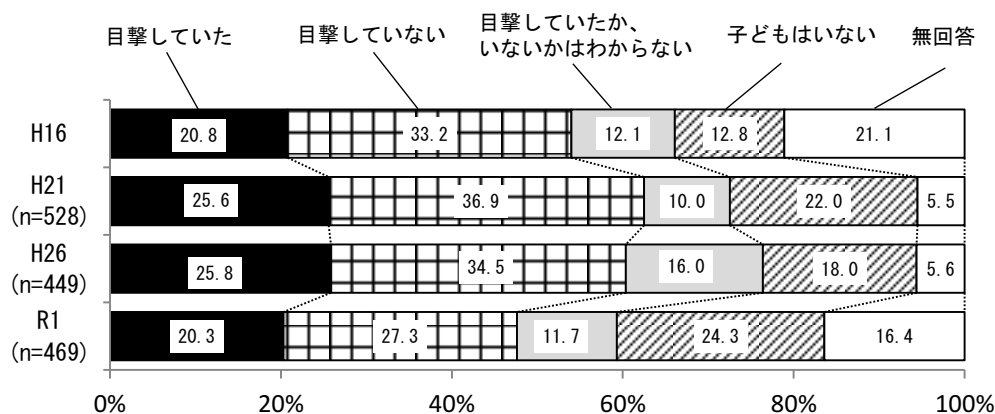


(4) 子どもの目撃

問 23 または問 24 で、ひとつでも「1. まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問 26 あなたがその相手からの行為を受けていたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。【〇印は1つ】

【図表 26-1 子どもの目撃】暴力行為経験者ベース



◆5人に1人が子どもの前で暴力行為を受けている

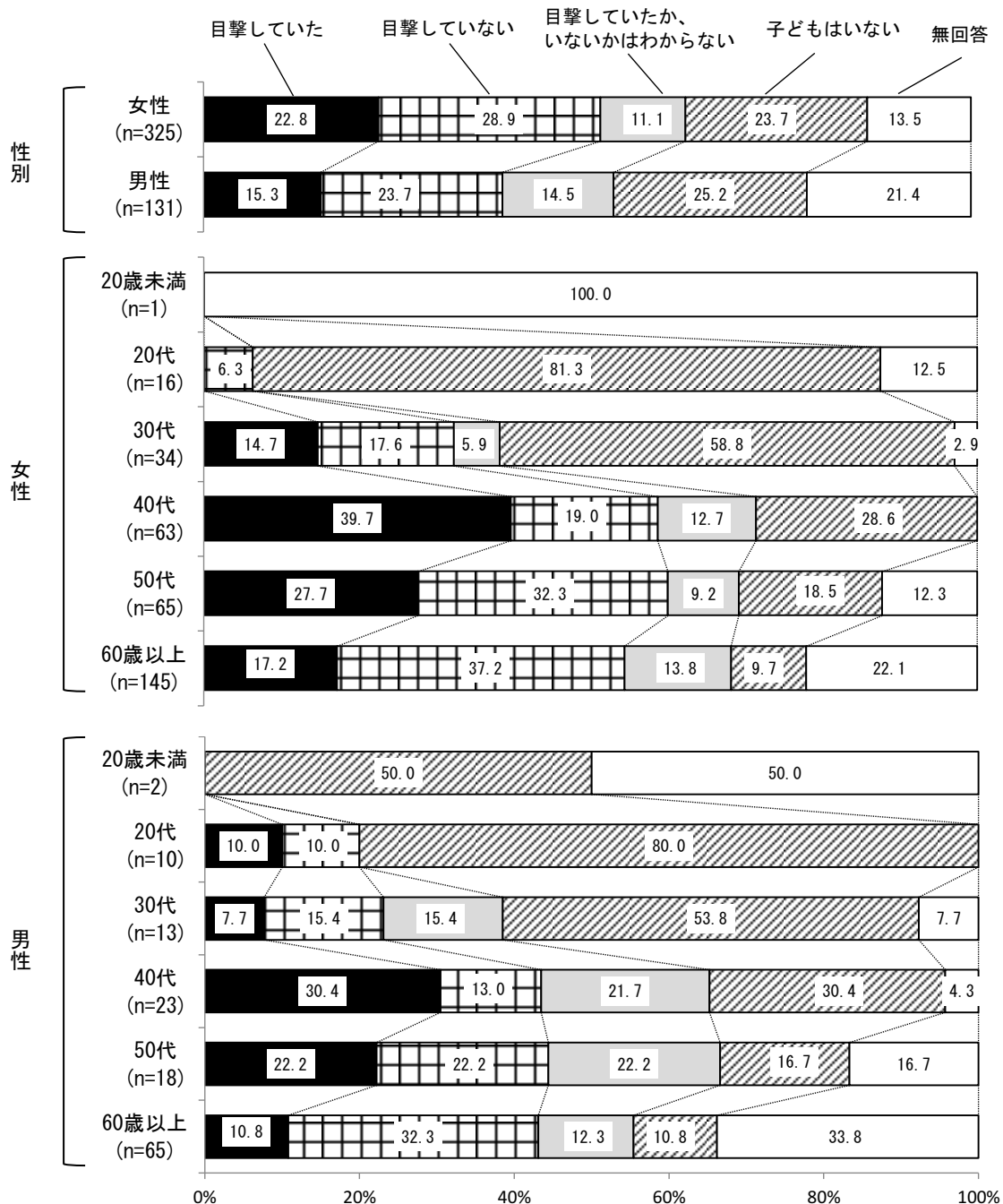
配偶者や交際相手からの暴力を子どもが目撃していたかについて、「目撃していた」は20.3%で約5人に1人が子どもの前で暴力行為を受けている。また、「目撃していない」はH26年より7.2ポイント低下している。

<性別、性・年齢別>

性別にみると、子供が「目撃していた」は女性が22.8%、男性が15.3%となっており、女性は男性の約1.5倍となっている。

性・年齢別にみると、女性40代、男性40代で「目撃していた」が「目撃していない」を上回っている。

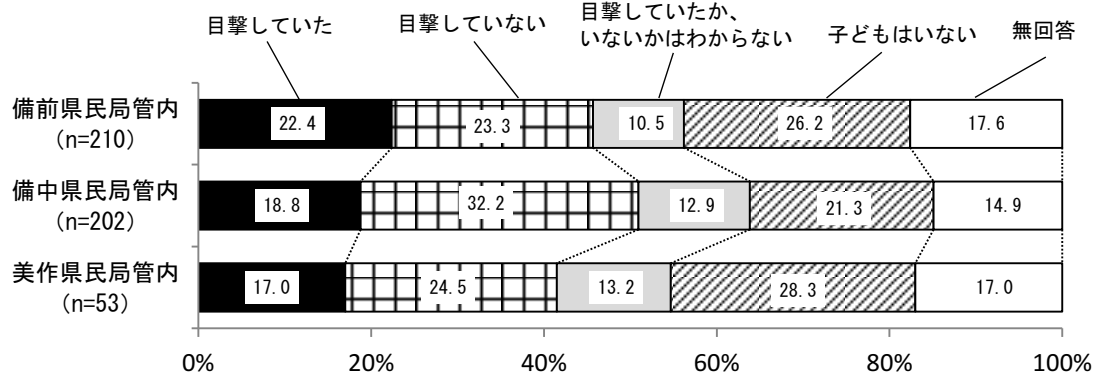
【図表 26-2 子どもの目撃（性別、性・年齢別）】暴力行為経験者ベース



<地域別>

すべての地域で、「目撃していない」が「目撃していた」を上回っているが、備前県民局管内は「目撃していた」が2割を超えている。

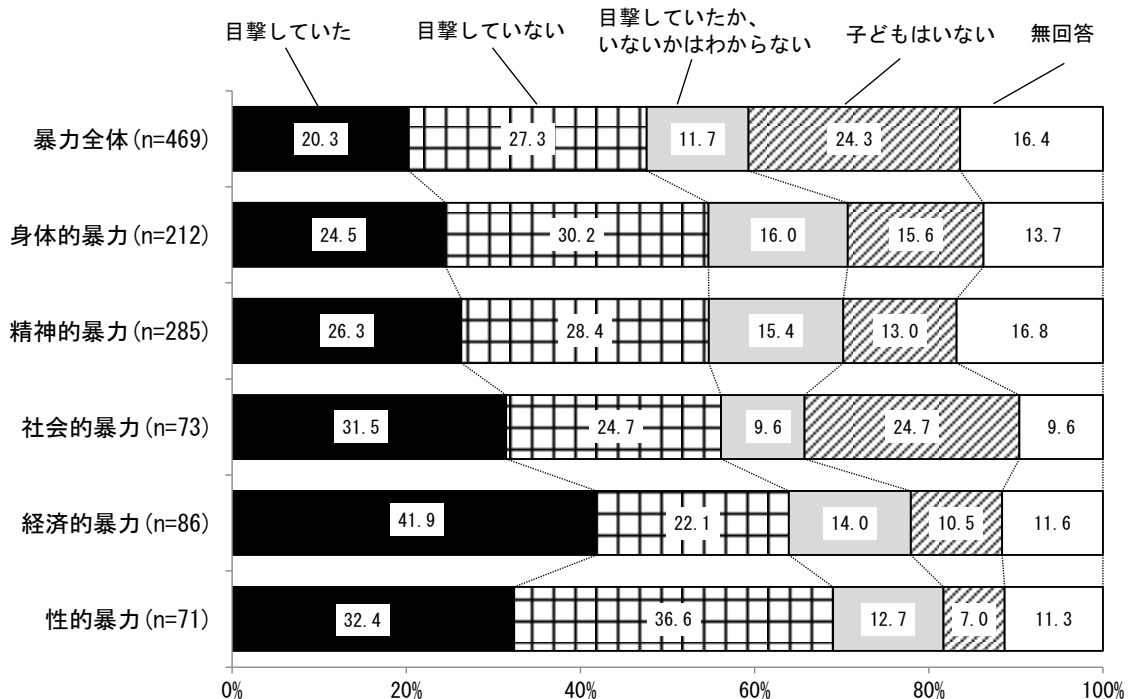
【図表 26-3 子どもの目撃（地域別）】暴力行為経験者ベース



<暴力の種類別>

暴力の種類別で見ると、すべての暴力の種類において「目撃していた」が2割を超えている。また、その中でも「経済的暴力」は41.9%と高くなっている。

【図表 26-4 子どもの目撃（暴力の種類別）】暴力行為経験者ベース



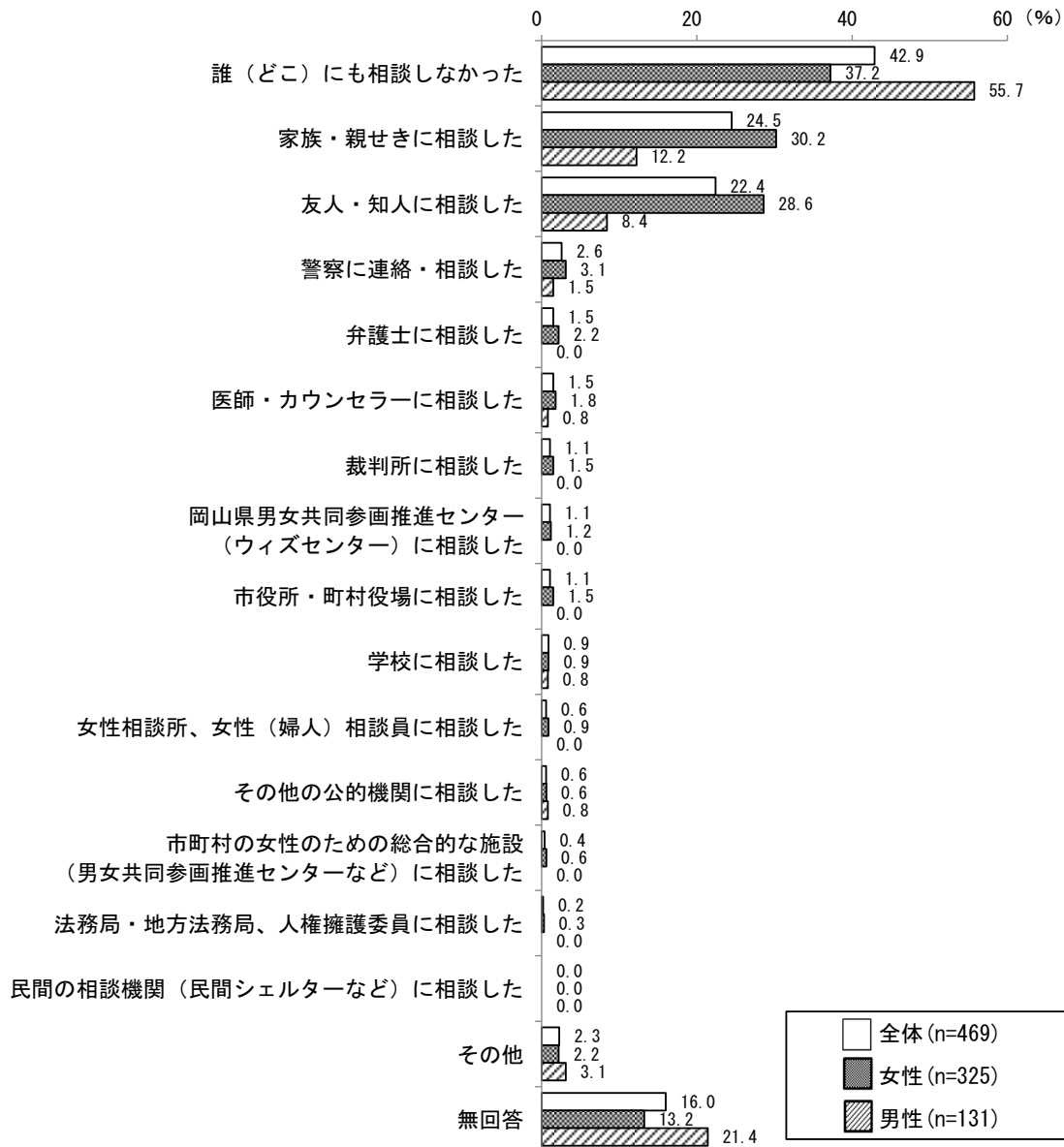
(5) 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先

問 23 または問 24 で、ひとつでも「1. まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問 27 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

【○印はいくつでも】

【図表 27-1 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先】暴力行為経験者ベース



◆ 「誰(どこ)にも相談しなかった」は4割以上、相談先では「家族・親せき」、「友人・知人」が高い
暴力行為を受けたことを誰(どこ)に相談したかについて、「誰(どこ)にも相談しなかった」が42.9%と最も高く、次いで「家族・親せきに相談した」(24.5%)、「友人・知人に相談した」(22.4%)などの順となっている。「誰(どこ)にも相談しなかった」は女性(37.2%)が男性(55.7%)を18.5ポイント下回っている。

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性 20 代、30 代で「友人・知人に相談した」が最も高くなっている。また、女性は、年代が上がるにつれて、「誰（どこ）にも相談しなかった」が上位になっている。男性は、20 代未満を除くすべての年代で「誰（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっている。「家族・親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」はほぼすべての年代で上位に入っている。

【図表 27-2 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(性・年齢別)】暴力行為経験者ベース

(単位:%)

		1位		2位		3位	
女性	20歳未満	/					
	20代	友人・知人に相談した	68.8	家族・親せきに相談した	25.0	誰(どこ)にも相談しなかった	18.8
	30代	友人・知人に相談した	47.1	家族・親せきに相談した	38.2	誰(どこ)にも相談しなかった	26.5
	40代	家族・親せきに相談した	42.9	誰(どこ)にも相談しなかった	41.3	友人・知人に相談した	34.9
	50代	誰(どこ)にも相談しなかった	36.9	家族・親せきに相談した	35.4	友人・知人に相談した	26.2
	60歳以上	誰(どこ)にも相談しなかった	40.7	家族・親せきに相談した	20.7	友人・知人に相談した	18.6
男性	20歳未満	友人・知人に相談した	50.0	/			
	20代	誰(どこ)にも相談しなかった	50.0	友人・知人に相談した	40.0	その他	10.0
	30代	誰(どこ)にも相談しなかった	76.9	家族・親せきに相談した	15.4	/	
	40代	誰(どこ)にも相談しなかった	69.6	家族・親せきに相談した	13.0	友人・知人に相談した	8.7
	50代	誰(どこ)にも相談しなかった	55.6	家族・親せきに相談した	16.7	/	
	60歳以上	誰(どこ)にも相談しなかった	49.2	家族・親せきに相談した	12.3	友人・知人に相談した	6.2

<地域別>

すべての地域で、「誰（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、「家族・親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」も上位に入っている。

【図表 27-3 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(地域別)】暴力行為経験者ベース

(単位:%)

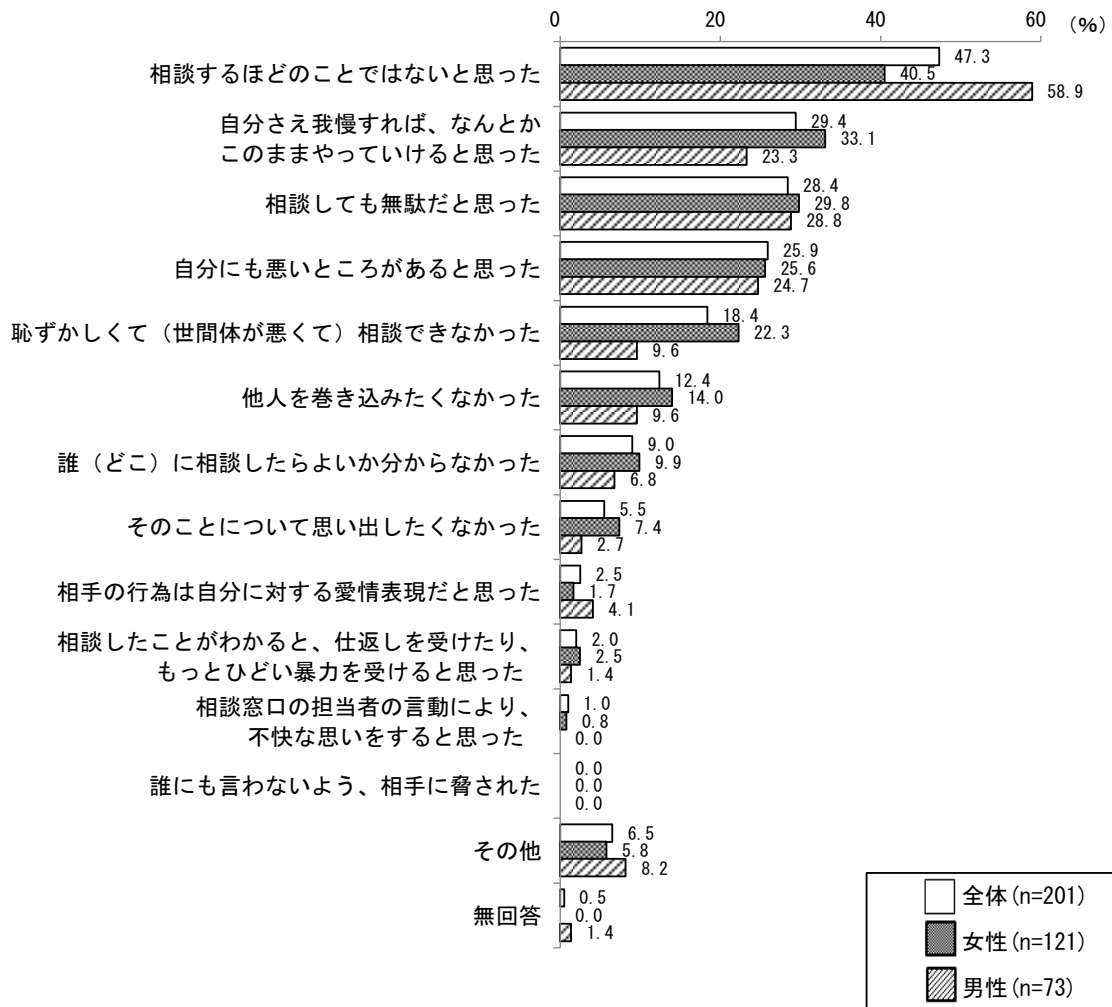
備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	誰(どこ)にも相談しなかった 41.9	誰(どこ)にも相談しなかった 43.6	誰(どこ)にも相談しなかった 45.3		
2位	家族・親せきに相談した 27.6	家族・親せきに相談した 22.3	友人・知人に相談した 28.3		
3位	友人・知人に相談した 22.4	友人・知人に相談した 20.8	家族・親せきに相談した 18.9		

(6) 相談しなかった理由

問 27 で、「1. 誰（どこ）にも相談しなかった」と答えた方のみお答えください。

問 28 誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。【○印はいくつでも】

【図表 28-1 相談しなかった理由】



◆「相談するほどのことではないと思った」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」「相談しても無駄だと思った」が上位に

相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」が47.3%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」（29.4%）、「相談しても無駄だと思った」（28.4%）などの順となっている。

性別にみると、「相談するほどのことではないと思った」は男性（58.9%）が女性（40.5%）を18.4ポイント、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」は女性（33.1%）が男性（23.3%）を9.8ポイント上回っている。

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、男女ともに、女性20代を除くすべての年代で「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっている。女性は50代を除くすべての年代で「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」、男女ともにすべての年代で「相談しても無駄だと思った」が上位に入っている。

【図表 28-2 相談しなかった理由（性・年齢別）】

(単位:%)

		1位	2位	3位			
女性	20歳未満						
	20代	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った 自分にも悪いところがあると思った	66.7	相談するほどのことではないと思った	33.3		
	30代	相談するほどのことではないと思った	44.4	相談しても無駄だと思った 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	33.3	誰(どこ)に相談したらよいか分からなかった 恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった 他人を巻き込みたくなかった	22.2
	40代	相談するほどのことではないと思った	42.3	相談しても無駄だと思った	34.6	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	30.8
	50代	相談するほどのことではないと思った	41.7	相談しても無駄だと思った	29.2	自分にも悪いところがあると思った	20.8
	60歳以上	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った 相談するほどのことではないと思った	39.0	自分にも悪いところがあると思った	30.5	相談しても無駄だと思った	28.8
	男性	20歳未満					
20代		相談するほどのことではないと思った その他	40.0	相談しても無駄だと思った	20.0		
30代		相談するほどのことではないと思った	70.0	自分にも悪いところがあると思った	50.0	相談しても無駄だと思った	40.0
40代		相談するほどのことではないと思った	62.5	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	37.5	相談しても無駄だと思った	25.0
50代		相談するほどのことではないと思った	60.0	相談しても無駄だと思った	50.0	恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	30.0
60歳以上		相談するほどのことではないと思った	56.3	自分にも悪いところがあると思った	28.1	相談しても無駄だと思った 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	21.9

<地域別>

すべての地域で、「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっている。「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」、「自分にも悪いところがあると思った」も上位になっている。

【図表 28-3 相談しなかった理由（地域別）】

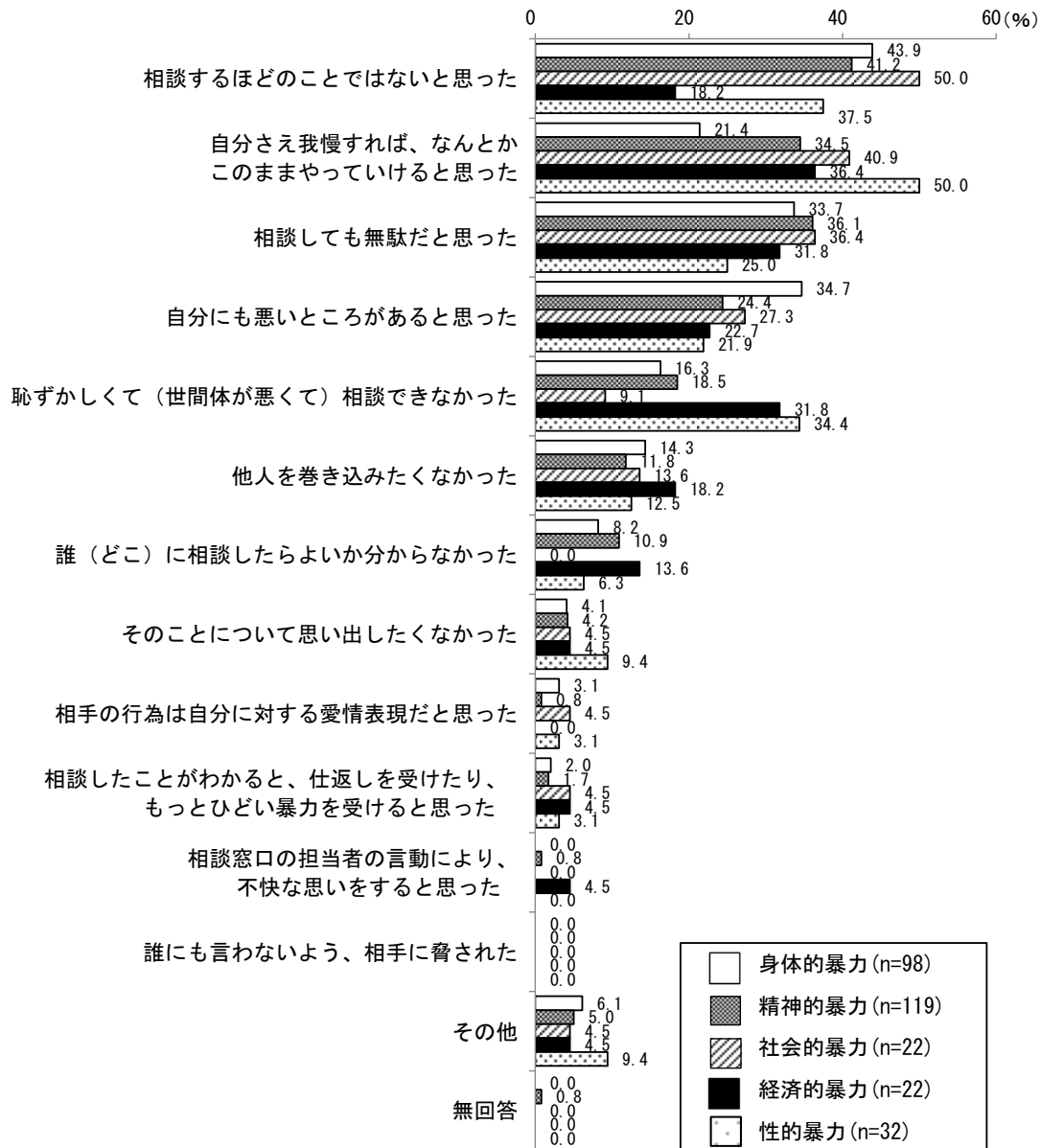
（単位：％）

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	相談するほどのことではないと思った	43.2	相談するほどのことではないと思った	48.9	相談するほどのことではないと思った	54.2
2位	自分にも悪いところがあると思った	30.7	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	34.1	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	25.0
3位	相談しても無駄だと思った	28.4	相談しても無駄だと思った	30.7	自分にも悪いところがあると思った	25.0

＜暴力の種類別＞

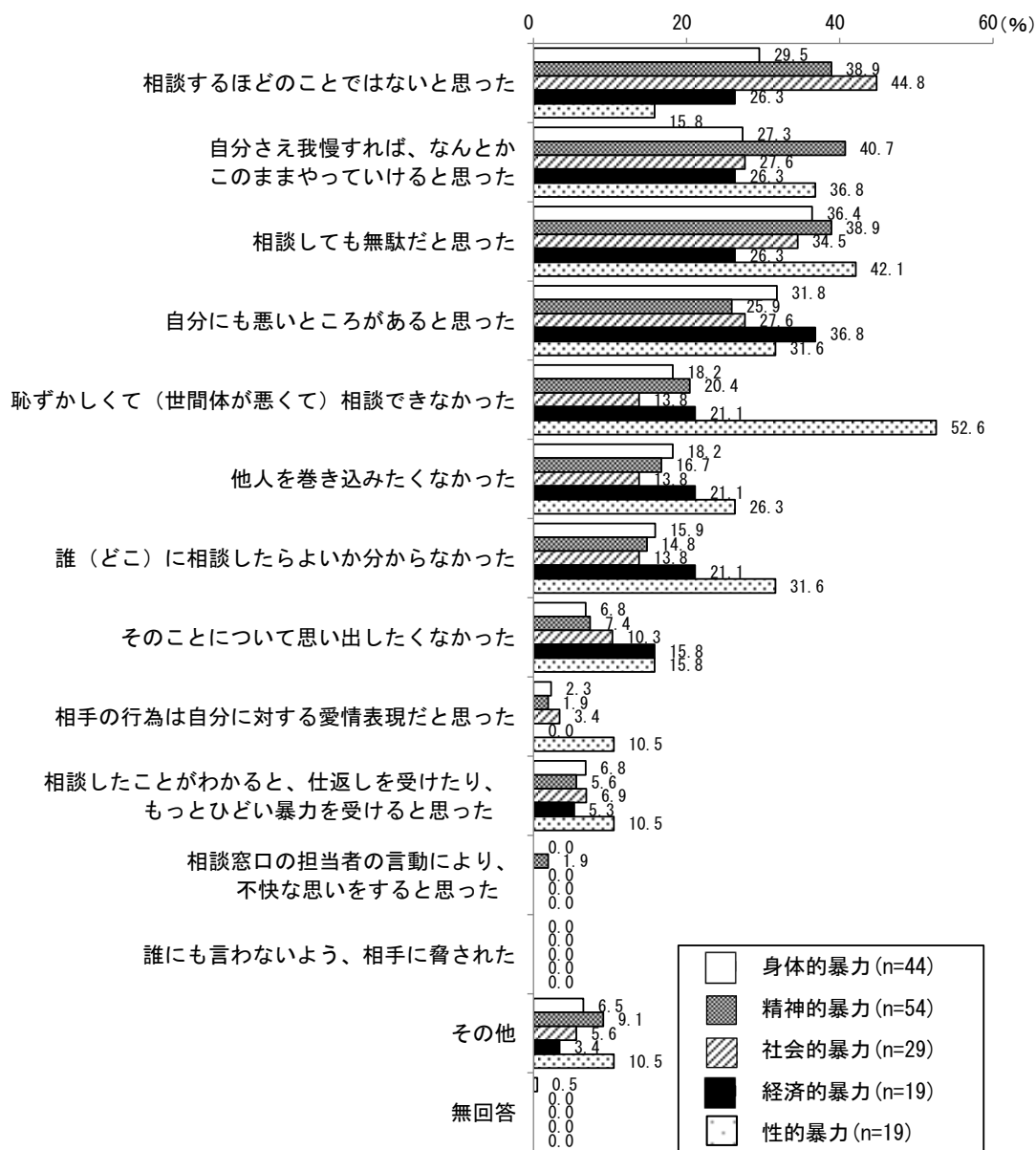
配偶者からの暴力の種類別にみると、経済的暴力と性的暴力を除いたすべての暴力の種類について、「相談するほどのことではないと思った」が最も高くなっており4割以上となっている。また、経済的暴力と性的暴力では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」が最も高くなっている。

【図表 28-4 相談しなかった理由（暴力の種類別）】 配偶者からの暴力



交際相手からの暴力の種類別にみると、性的暴力は、「恥ずかしくて（世間体が悪くて）相談できなかった」が5割を超えている。また、精神的暴力はその他の暴力の種類と比べると、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていける」は10ポイント以上高くなっている。

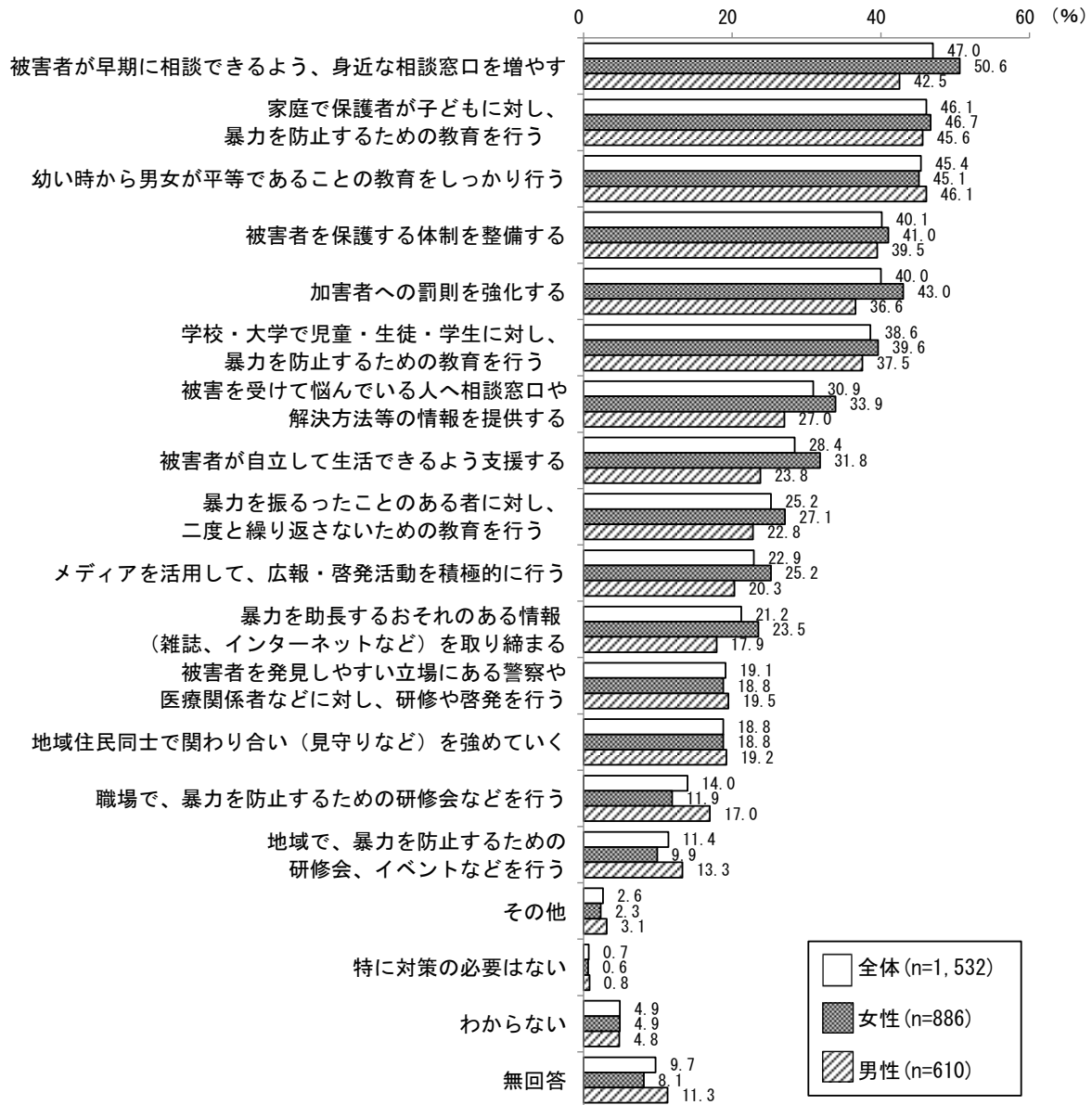
【図表 28-5 相談しなかった理由（暴力の種類別）】 **交際相手からの暴力**



(7) 男女間の暴力を防止するために必要なこと

問 29 男女間における暴力（配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアルハラスメントなど）への取組として必要なことはどんなことだと思いますか。【○印はいくつでも】

【図表 29-1 男女間の暴力を防止するために必要なこと】



◆「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が47.0%と最高

男女間の暴力を防止するために必要なことについて、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が47.0%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(46.1%)、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」(45.4%)などの順となっている。

性別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」は女性(50.6%)が男性(42.5%)を8.1ポイント上回っている。

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、男女ともに、すべての年代で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「加害者への罰則を強化する」のいずれかが上位に入っている。また、男女ともに、60歳以上で「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」が最も高くなっている。

【図表 29-2 男女間の暴力を防止するために必要なこと（性・年齢別）】

(単位:%)

		1位		2位		3位	
女性	20歳未満	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	71.4	加害者への罰則を強化する	57.1	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	50.0
						被害者を保護する体制を整備する	
	20代	加害者への罰則を強化する	58.9	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	57.1	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	46.4
	30代	加害者への罰則を強化する	53.9	被害者を保護する体制を整備する	49.4	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	44.9
	40代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	58.9	加害者への罰則を強化する	58.2	被害者を保護する体制を整備する	50.7
	50代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	50.6	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	47.4	加害者への罰則を強化する	44.8
	60歳以上	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	47.9	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	47.2	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	36.6
男性	20歳未満	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	33.3	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	26.7	被害を受けて悩んでいる人へ相談窓口や解決方法等の情報を提供する	20.0
		被害者を保護する体制を整備する		家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う		暴力を振ったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	
		加害者への罰則を強化する		学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う			
	20代	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	53.8	被害者を保護する体制を整備する	51.3	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	43.6
	30代	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	62.0	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	50.0	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	48.0
					加害者への罰則を強化する		
40代	加害者への罰則を強化する	52.3	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	48.9	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	47.7	
50代	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	46.8	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	44.7	被害者を保護する体制を整備する	38.3	
	60歳以上	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	50.0	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	44.8	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	39.5

<地域別>

備前県民局管内は「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、備中県民局管内、美作県民局管内は「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」が最も高くなっている。「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」も上位に入っている。

【図表 29-3 男女間の暴力を防止するために必要なこと（地域別）】

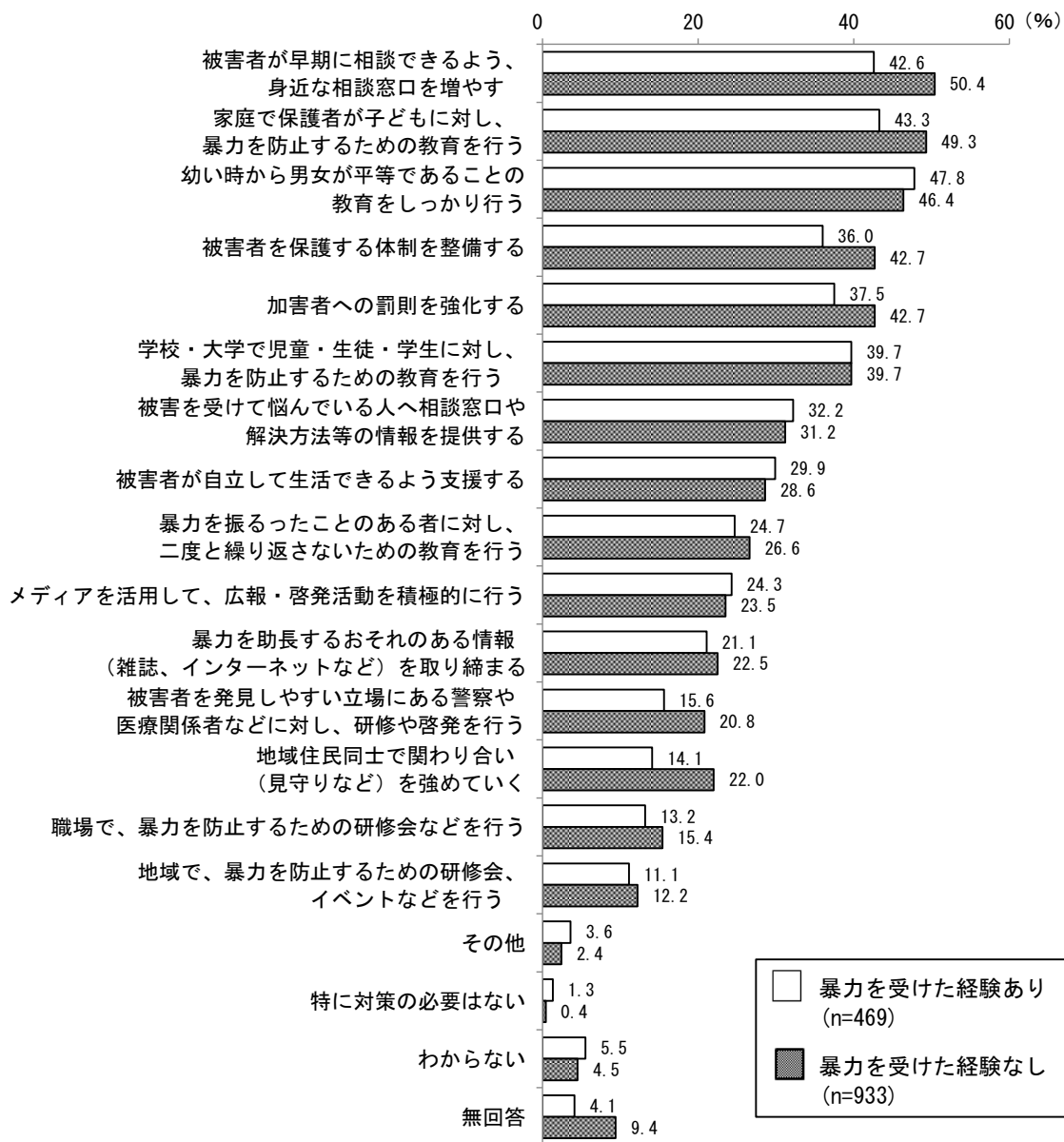
(単位：%)

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	49.6	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	45.3	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	44.3
2位	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	48.5	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	45.2	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	44.3
3位	幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う	46.0	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	44.9	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	42.6

＜暴力を受けた経験の有無別＞

暴力を受けた経験の有無別でみると、暴力を受けた経験ありは経験なしの人と比べて、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が7.8ポイント低くなっている。

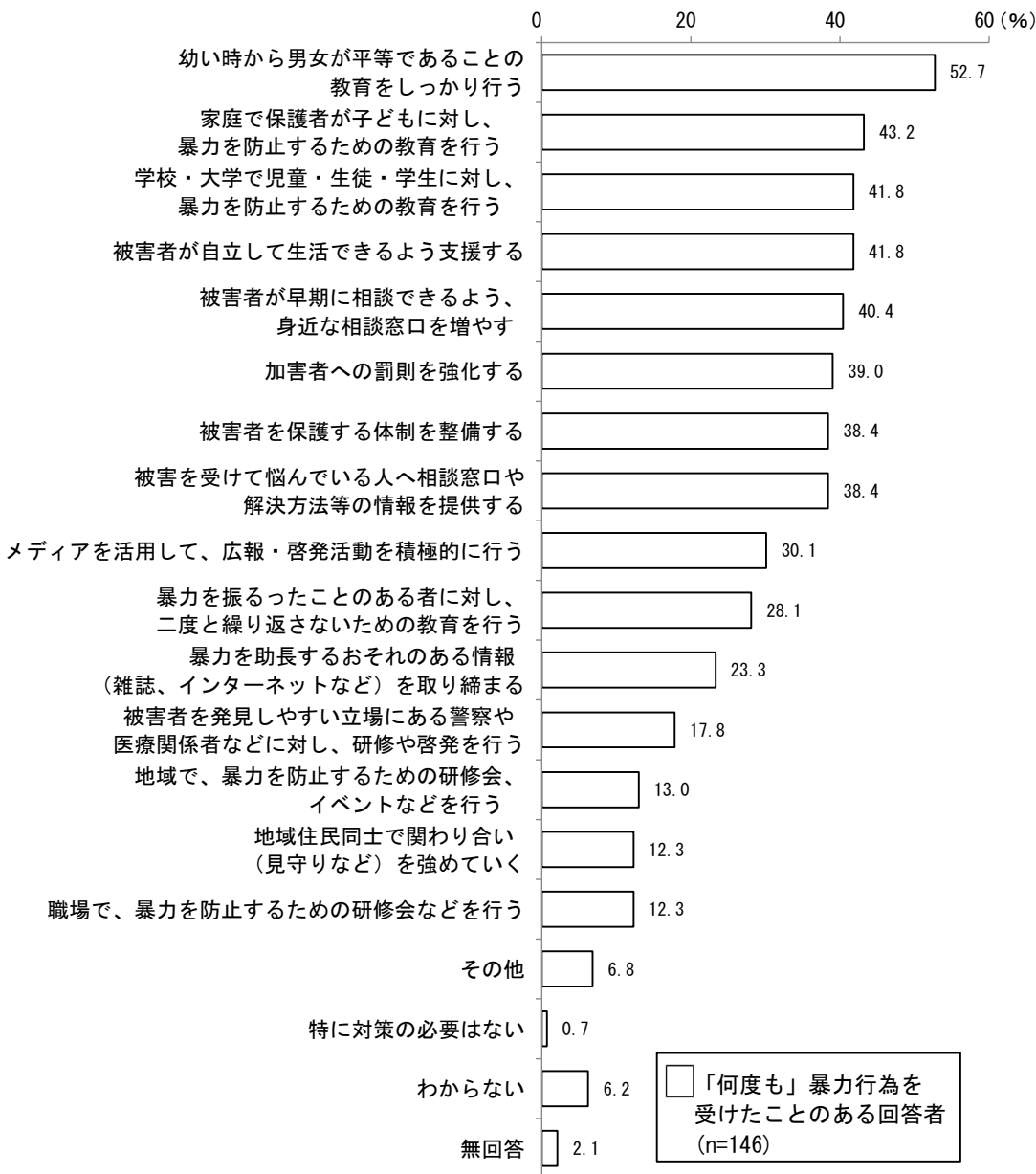
【図表 29-4 男女間の暴力を防止するために必要なこと（暴力を受けた経験の有無別）】



< 「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者 >

「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者について、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」が52.7%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」（43.2%）、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」（41.8%）などの順となっている。

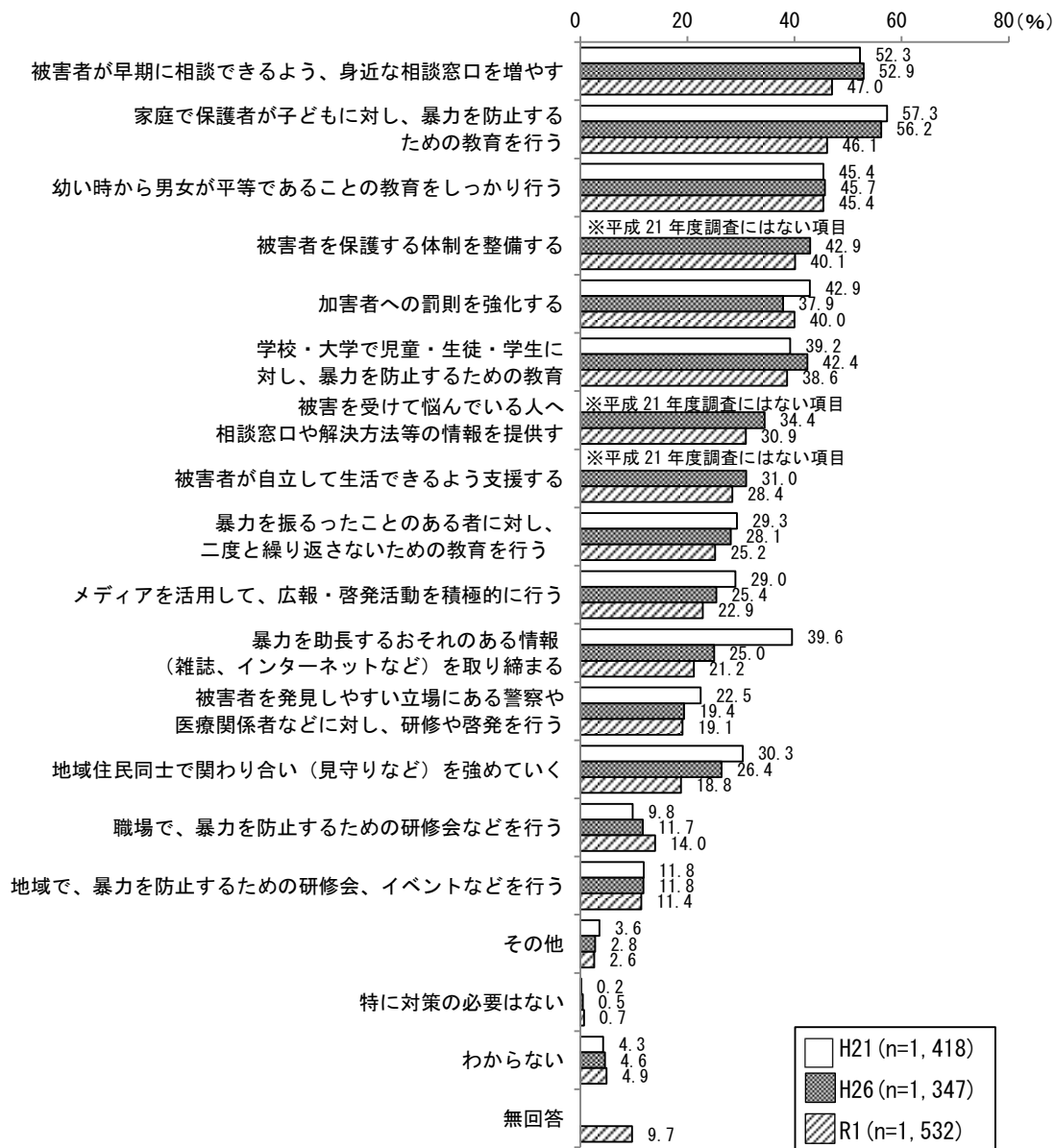
【図表 29-5 男女間の暴力を防止するために必要なこと（「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「幼いときから男女が平等であることの教育をしっかりと行う」が過去の調査と同様に上位に入っているが、全体的に低下傾向にある。

【図表 29-6 男女間の暴力を防止するために必要なこと（過去の調査との比較）】

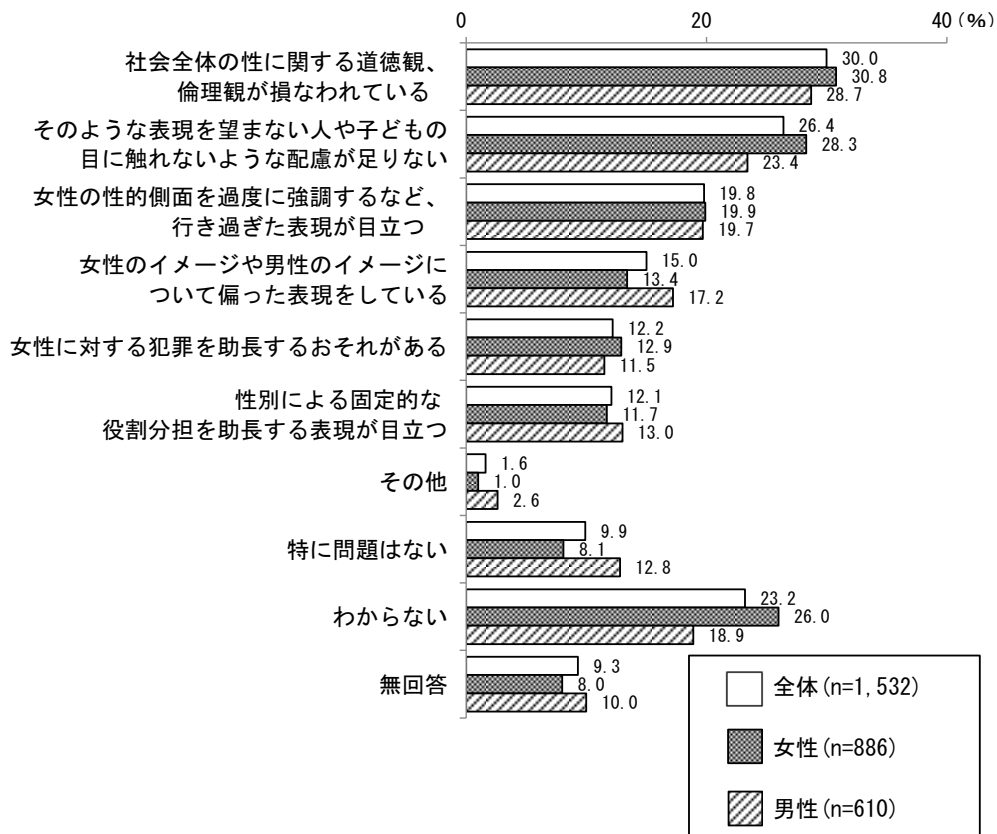


※数値を比較するため、無回答を除いて集計しています。

(8) メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現の現状認識

問 30 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものをお答えください。【○印はいくつでも】

【図表 30-1 メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識】



◆ 「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が3割

メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現の現状認識について、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が30.0%と最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(26.4%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(19.8%)などの順となっている。

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性20歳未満、40代、50代で「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、女性60歳以上、男性50代、60歳以上で「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高くなっているが、男女ともに、男性60歳以上を除くすべての年代で「わからない」、「特に問題はない」も上位に入っている。

【図表 30-2 メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（性・年齢別）】

(単位:%)

		1位		2位		3位	
女性	20歳未満	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	35.7	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ 社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている 女性に対する犯罪を助長するおそれがある 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている わからない	21.4	性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ 特に問題はない	14.3
	20代	わからない	25.0	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	23.2	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ 女性に対する犯罪を助長するおそれがある 特に問題はない	17.9
	30代	わからない	38.2	特に問題はない	18.0	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	16.9
	40代	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	32.2	わからない	29.5	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	24.7
	50代	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	32.5	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	30.5	わからない	26.0
	60歳以上	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	40.6	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	29.5	わからない	22.4
男性	20歳未満	わからない	53.3	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	13.3	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ 女性に対する犯罪を助長するおそれがある 特に問題はない	6.7
	20代	わからない	38.5	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	25.6	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	20.5
	30代	特に問題はない	28.0	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	22.0	わからない	18.0
	40代	わからない	26.1	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	21.6	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	20.5
	50代	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	27.7	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない わからない	20.2	性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	19.1
	60歳以上	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	38.3	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	26.2	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	22.8

<地域別>

すべての地域で、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」などの順となっている。

【図表 30-3 メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（地域別）】

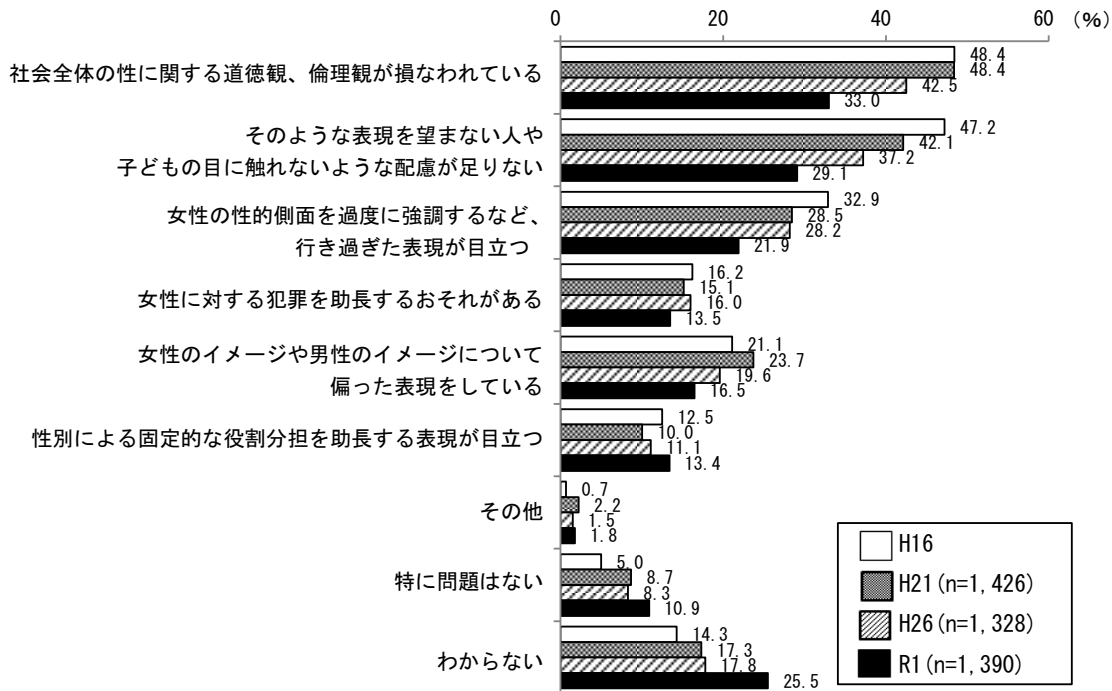
(単位: %)

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	28.4	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	30.8	社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている	33.9
2位	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	26.1	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	27.3	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	26.2
3位	わからない	22.9	わからない	22.6	わからない	23.5

<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、H16 年度調査から今回調査にかけて、「社会全体の性に関する道德観、倫理観が損なわれている」が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」などの順となっており、上位の順番においては経年による大きな変化はみられない。

【図表 30-4 メディアでの性別役割分担等の表現の現状認識（過去の調査との比較）】



※数値を比較するため、無回答を除いて集計しています。

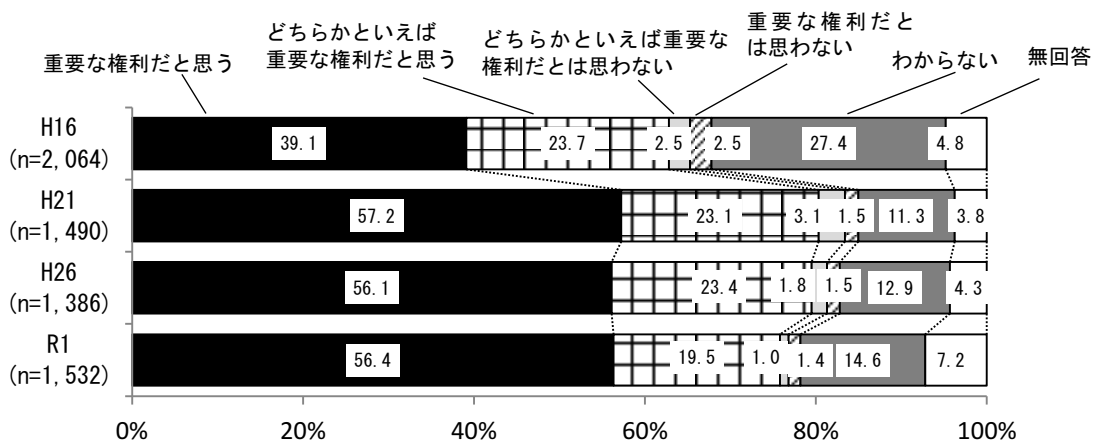
(9) 「生涯を通じて性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性

問 31 あなたは、「生涯を通じて性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」がどの程度、女性にとって重要な権利だとお考えですか。【〇印は1つ】

※【生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）】

「いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性関係、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれ、一人の人間として、自分の体の性と生殖に関することについて自己決定を行い、健康であることが尊重される」という考え方。

【図表 31-1 「生涯を通じて性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性】



◆7割超が「重要な権利」との認識に

「生涯を通じて性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）の重要性」について、「重要な権利だと思う」は56.4%と5割を超え、「どちらかといえば重要な権利だと思う」を合わせると7割を超えて高くなっている。

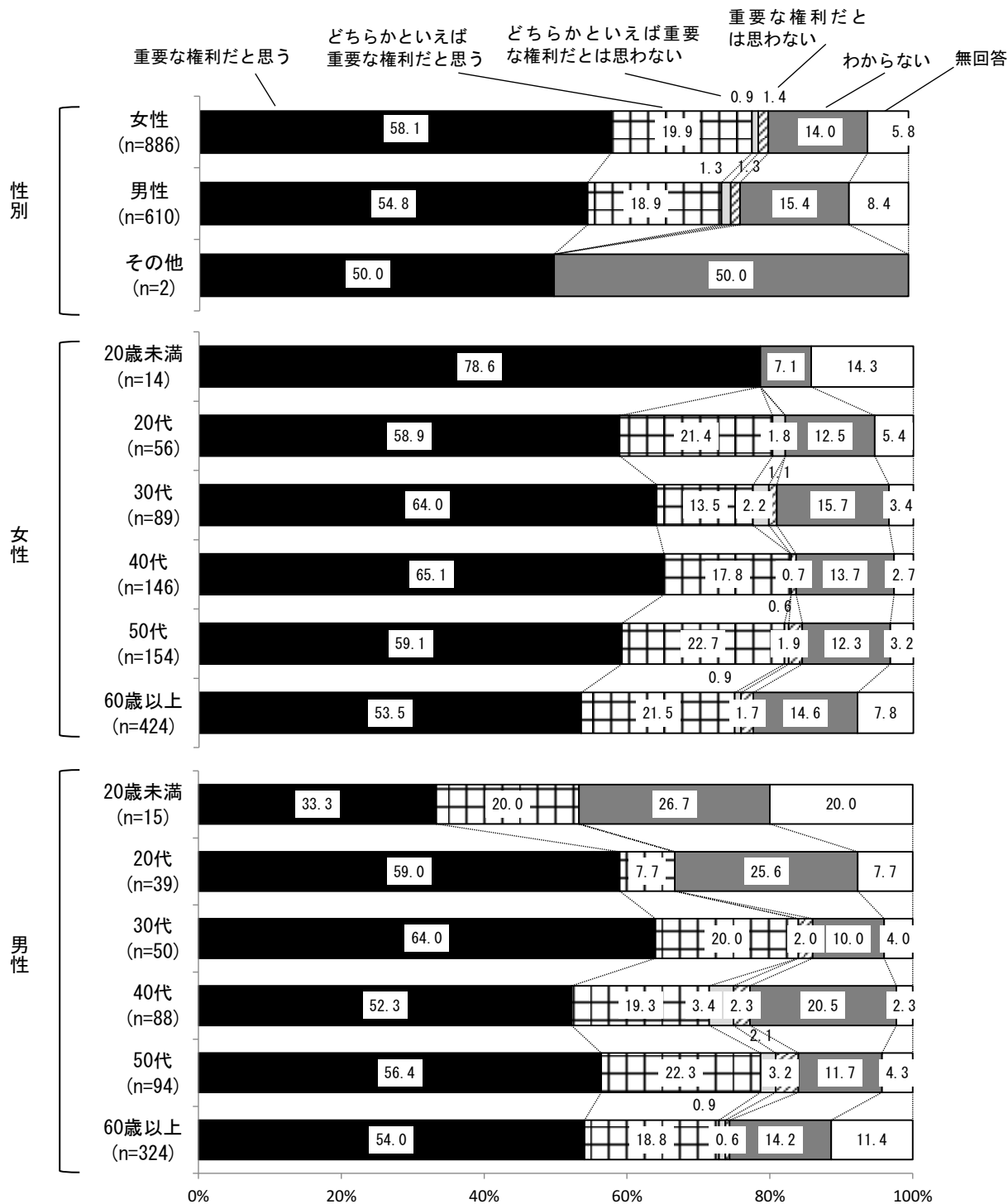
H26年調査と比べると、「どちらかという重要な権利だと思う」がやや低下しているが、依然として高い水準となっている。

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『重要な権利だと思う』（「重要な権利だと思う」と「どちらかといえば重要な権利だと思う」を合わせた割合）は7割を超えている。

性・年齢別にみると、男性20歳未満、20代を除くすべての年代で『重要な権利だと思う』が7割を超えている。また、『重要な権利だと思う』は女性40代が82.9%と最も高く、男性は30代が84.0%と最も高くなっている。

【図表 31-2 「生涯を通じて性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『重要な権利だと思う』が7割を超えており、美作県民局管内では『重要な権利だと思う』が80.9%と他の地域と比べ、高くなっている。

【図表 31-3 「生涯を通じて性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」の重要性（地域別）】

